掘りだそう、自然の力。

Calbee

カルビー株式会社
社会・環境報告書 2017

Sustainability
Report
2017

カルビーグループ企業理念

私たちは、自然の恵みを大切に活かし、
おいしさと楽しさを創造して、
人々の健やかなくらしに貢献します。

コーポレートメッセージ

掘りだそう、自然の力。
Calbee

カルビーグループビジョン

**顧客・取引先から、次に従業員とその家族から、
そしてコミュニティから、最後に株主から
尊敬され、賞賛され、そして愛される会社になる**

カルビーグループ行動規範

❶ 法令および社会規範等の遵守

- 私たちは、国や海外現地の法令、社会規範、社内外の諸規則やルールを守り、高い倫理観に基づいて、社会に信頼される公正で良識ある企業活動に努めます。

❷ お客様本位の徹底

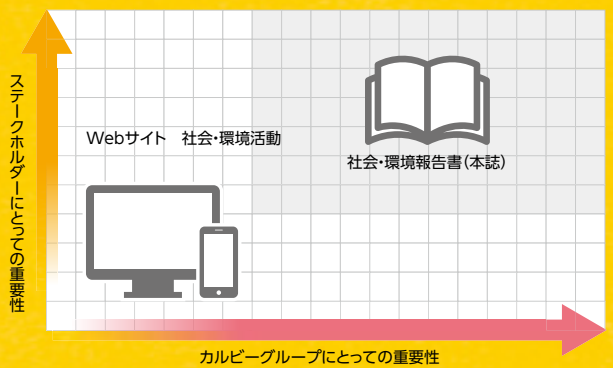
- 私たちは、何よりもお客様が第一であることを徹底し、お客様から高い信頼と満足を頂けるよう、安全で質の高い製品とサービスの提供に努めます。
- 私たちは、VOC[Voice of Customer(お客様の声)]を企業活動へ的確に反映し、新たな価値の創造を目指します。
- 私たちは、生活者一人ひとりのニーズにお応えする提案を通じて、食生活の彩を豊かにし「健やかなくらし」に貢献し続けます。

❸ 従業員の尊重

- 私たちは、互いに個人を尊重し、誰もが活き活きと働くことができる職場づくりに努めます。
- 私たちは、チームワークを大切にして、全員参加で共通目標の達成を目指します。
- 私たちは、地域社会で活躍する一人ひとりのプレーヤーとして自らの能力を磨き続けます。

報告メディアについて

冊子とWebそれぞれのメディアの特性を活かしたレポーティングを行っています。冊子版では重要性の高い、または社会からの関心の高い項目に絞って、読みやすく、かつわかりやすく紹介しています。またWeb版ではCSR等の取り組み全体を網羅的に掲載しています。



編集方針

本報告書は、企業理念に基づくカルビーグループの社会的責任(Corporate Social Responsibility：CSR)に対する姿勢や取り組みについて、ステークホルダーの皆様にわかりやすくお伝えすることを目的としています。カルビーは2008年度より報告書を毎年発行し、報告内容の充実に努めてきました。
本報告書では、以下の点に留意して編集しています。
●特集では、ここ数年で急成長を遂げた「フルグラ」にフォーカスしました。「フルグラとサステナビリティ」と題し、「フルグラ」を通して見るカルビーグループの取り組みや課題をお伝えしています。
●中面では、各ページにて「重要な取り組み」を中心にまとめています。Webサイトでも網羅的にご紹介していますので、下記URLよりWebサイトをご覧ください。

http://www.calbee.co.jp/csr/

❹ 公平かつ公正な関係の構築

- 私たちは、お客様・取引先・株主を始めとする全ての関係者との間で公平かつ公正な関係維持に努め、企業の社会的責任を果たします。
- 私たちは、お得意先との協力を深めて相互に価値を創出し、共利共盛の関係を構築します。

❺ 環境・資源の保全・保護

- 私たちは、地球環境の保全に取り組むとともに、省エネルギー活動を推進し地球資源の保護に努めます。
- 私たちは、農業・漁業で働く人々やその産地とより深く結びついたネットワークを構築して「自然の恵み」を大切に活かしていきます。

❻ 地域社会への貢献

- 私たちは、自らが地域社会の一員であることを認識し、地域社会との調和や連携に努めるとともに、良き企業市民として積極的に社会貢献活動に取り組みます。
- 私たちは、海外で事業を行う際に、その国・地域の文化・習慣を尊重し、国際社会の発展に貢献します。

CONTENTS

編集方針 …… 02
カルビーグループのあゆみ …… 04
トップメッセージ …… 06
世界に広がるカルビーグループ …… 10
数字で見るカルビーグループ …… 12

特集
フルグラ®とサステナビリティ …… 14

[社会への取り組み]
品質を高める取り組み …… 22
お客様の声を聴く取り組み …… 26
お取引先様のために …… 28
従業員のために …… 30
ダイバーシティの取り組み …… 32
地域社会のために …… 35

[環境への取り組み]
環境マネジメント …… 40
温暖化防止の取り組み …… 42
資源の有効活用 …… 44
環境コミュニケーション …… 45

[マネジメント]
コーポレート・ガバナンス …… 46
コンプライアンス・リスク管理 …… 48

対象期間

2016年度（2016年4月1日から2017年3月31日まで）。ただし、一部に2016年度よりも前、または2017年度以降の活動報告も含んでいます。

発行時期

2017年6月（前回2016年6月）
※2017年版のWebサイトは2017年8月に公開予定です。

対象組織

カルビー株式会社を中心に、グループ会社に関する報告も一部含んでいます。

参考にしたガイドライン

●環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」
●GRI「G4 サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン」
●ISO26000

本報告書には、カルビーグループの過去と現在の事実だけでなく、発行日時点における計画や見通しなどの将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手した情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸与件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があります。
また、各報告データは端数処理をしているために合計が合わない項目があります。
読者の皆様には、以上をご了承いただきますようお願い致します。

カルビーグループの あゆみ

やめられない、とまらない

“皆様の健康に役立つ商品づくりをしたい”との思いから
ミネラルの中でも代表的なカルシウムの「カル」と、
ビタミンB群の中心的な栄養素であるビタミンB1の「ビー」を組み合わせ
「カルビー」という会社は誕生しました。
私たちは、この社名に込められた意味やじゃがいもをはじめとする
野菜や果物など自然の恵みを大切にし、
社会やお客様が求める商品を世界中にお届けしてきました。
この思いは「やめられない、とまらない」
カルビーグループのDNAです。

1949年 創業

1955年 かっぱあられ発売

小麦粉からあられの製造技術開発に成功。
シンボルキャラクターとして清水崑画伯のかっぱのデザインを採用。

1964年 かっぱえびせん発売

創業者の松尾孝が幼い時に食べた川エビの天ぷらから着想を得て誕生。

1972年 サッポロポテト発売

生のじゃがいもを原料に使った商品を初めて発売。

1975年 ポテトチップス発売

1976年に「のり塩」、1978年に「コンソメパンチ」を発売。

1950 1960 1970 1980

創業期 終戦後の混乱から創業

成長期 大ヒット商品の誕生

1995年 じゃがりこ発売

中身も容器もそれまでの商品とは全く違う新しいタイプの商品として誕生。

1991年 フルーツグラノーラ発売（現在のフルグラ）

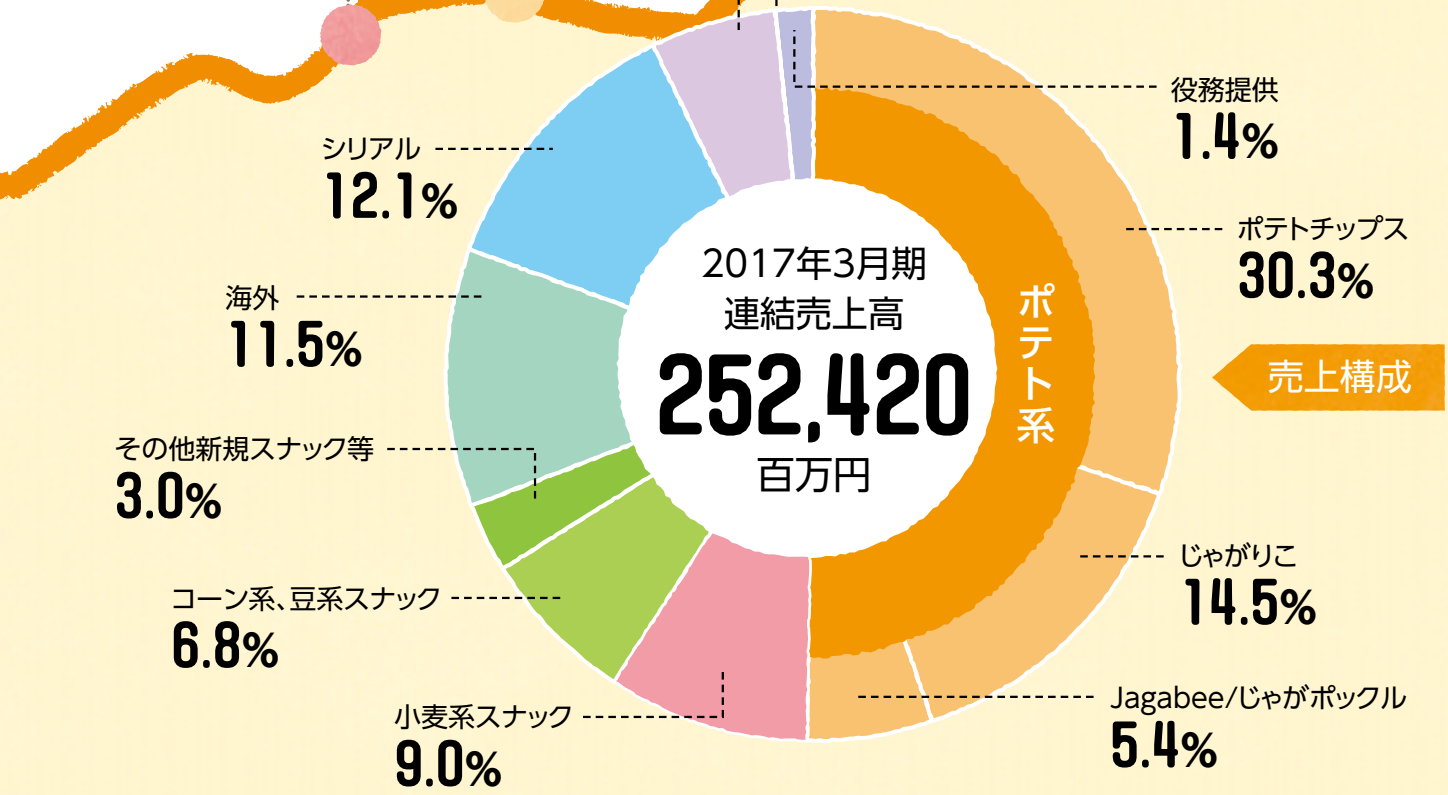
子どもたちだけでなく、仕事で活躍する女性たちの朝食にもシリアル食品を利用してもらいたいとの思いから誕生。

2006年 Jagabee発売

2003年発売の「じゃがポックル」の評判をもとに全国展開をめざす商品として開発。

2016年 ポテトチップスクリスプ発売

筒型タイプの成型ポテトチップスを「うすしお味」「コンソメパンチ」の2味で発売。



1990 2000 2010 (年)

転換期 新たな基盤づくり

再成長期 グローバル企業へ

カルビーは、まだまだ成長の途中
負けるわけにはいかないのです

代表取締役会長 兼 CEO　**松本 晃**

2016年度は、自然災害をはじめさまざまな困難に直面しました。
ステークホルダーの皆様にはご心配やご迷惑をおかけいたしましたが、
皆様のご支援とご声援に支えられ、カルビーグループ従業員一同、
全力を尽くして改善に努めてまいりました。

名を成すは毎(つね)に窮苦の日にあり
事の敗るるは多く得意の時による

困難を機に、カルビーはもっと良い会社になろうと、決意を新たにしました。
皆様のご期待とご声援に応えられますよう引き続き努力してまいります。

カルビーのDNAはイノベーションそのもの

私がカルビーに入社した当初、こんなによい財産があるのに、なぜそれほど儲かっていないのだろうと考えました。そこからさまざまな改革を行ってきましたが、その結果、**カルビーは少しだけ変わることができたと思います。**それが今の実績につながっているのだろうと考えますが、最近、そのスピードが鈍化していることは否めません。「次の一手」がないからです。

カルビーはもともと小麦や小エビ、じゃがいもなど、**日本であまり使われていなかった資源を使って社会に貢献する、イノベーション気質に富んだ会社であった**はずです。「フルグラ」は、これまでの日本の朝食に無かったものとして、お陰様で好評をいただき、スナック事業に続く朝食事業という分野の開拓に貢献しましたが、これに続く第3、第4の柱を築いていかないといけない。理屈じゃなく**がむしゃらに取り組む姿勢や情熱が必要**なのです。

世界を相手にするために挑戦し続けます

そのためにはもっと**成果にこだわらないといけません。**私がコミットメント(約束)&アカウンタビリティ(結果責任)(本誌P30参照)を取り入れているのもそのためです。他にも働き方改革、オフィス改革、コストリダクション、ガバナンス強化、ダイバーシティと、いろいろなことに取り組んできました。よくカルビーは、女性の活躍推進が進んでいると言われますが、私はそうは思いません。むしろ遅いくらいです。

いろいろ足りないところはありますが、それはまだ**伸びしろがある**ということです。カルビーはこれからまだまだ成長できます。私は新年の挨拶で従業員に向け「負けてたまるか」というメッセージを発信しました。そう、**まだ止まるわけにはいかないのです。**
そして日本のカルビーから、世界のカルビーにしていきたい。困難ではありますが、それだけにやりがいがあります。恐れていては何もできません。カルビーはこれからも挑戦を続けながら、成長してまいります。
これからもカルビーに、ぜひご期待ください。

リスクに負けない強靭なしくみをつくり 生産者や地域とともに、発展していきます

代表取締役社長 兼 COO　**伊藤 秀二**

課題が鮮明になった1年でした

2016年度は北海道を襲った台風被害によるじゃがいも不足などがあり、お客様やお取引先様をはじめステークホルダーの皆様には大変なご迷惑をおかけいたしました。自然災害とはいえ、こうしたリスクも含めた事業設計に、足りない部分があったことは否めません。今後は生産者様との連携をより強固なものにしていくとともに、産地の拡大や新たな生産技術の開発に取り組むほか、**気候変動に対する中長期的視点での対策の必要性をあらためて感じています。**

2016年度は「フルグラ」の成長、新製品「ポテトチップスクリスプ」の好調などにより売上、利益ともに過去最高を更新することができましたが、満足できる内容とは言い難い状況です。「単に売る」というやり方ではなく、**営業、開発、生産など全社で一体となって「イノベーション」をおこし、皆で新しいカルビーをつくっていかないといけない**と思っています。

カルビーの継続的な成長のために必要なこと

そのために私達が推進しているのが、働き方改革を含めたダイバーシティと、社会貢献活動、そして健康経営です。

ダイバーシティに関しては「なでしこ銘柄」に4年連続で選ばれるなど評価をいただいていますが、実のところ、**それほど働き方改革は進んでいないと思っています**。今はまだそのしくみをつくっただけ。もう一つの柱である健康経営とあわせて、本当の意味での働き方改革が必要です。

その健康経営ですが、2016年度は社長直轄の**ヘルスケア委員会**を設立したほか、2016年10月に**『カルビーグループ健康宣言』**を発表、あらためて健康経営を積極的に推進していくことを宣言し、私も自ら実践しています（本誌P31参照）。その結果、「健康経営優良法人2017（大規模法人部門）～ホワイト500～」の認定をいただきましたが、これからも**全ての従業員がイキイキと働ける環境づくりを進めてまいります**。

また、カルビーグループとして「みちのく未来基金」をはじめとする被災地支援や子育て支援、環境美化など社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

2016年度は台風被害のあった地域へさまざまな復興支援をさせていただきました。自然災害に多くみまわれたことで、カルビーは**地域の皆様に支えられて事業活動ができている**のだということをあらためて認識しました。

生産者とともに地域とともに

カルビーのサステナビリティは生産者の方々とともに発展すること無しには成り立ちません。そのためには**産地開発に積極的に取り組んでいく**ほか、**負担の大きい農作業への支援、多様な作物の活用**など、いろいろな側面から生産者の方との共生の道を探っていきたいと考えています（本誌P28参照）。

さらにカルビーが最も大切にしている「お客様」に対する責任についても、さらに深く考えていく必要があります。おいしい商品を提供するだけでよいのか、トータルとしてバランスのとれた食生活に貢献する必要があるのではないか。このようにもっと視野を広く、長期的な視点で事業を捉え、そこに注力していくことで、**お客様に、そして社会にカルビーならではの価値をご提供できる**ものと考えています。

今後もカルビーはステークホルダーに尊敬され、賞賛され、愛されるよう取り組みを進めてまいります。ご理解、ご支援をよろしくお願いします。

カルビーグループのCSR活動における重点課題（マテリアリティ）

- 食の安全・安心を守る取り組み
- お取引先様との協力による商品の安定供給
- 環境に配慮した企業活動
- ダイバーシティの推進
- 地域に根ざした社会貢献活動
- コンプライアンス・リスク管理

Calbee Group

世界に広がるカルビーグループ

～世界中の人々の健やかなくらしに貢献したい～

カルビーの商品を世界中の人々に楽しんでいただくために、海外への展開を拡大しています。じゃがいもをはじめとする野菜などの自然の恵みを大切に活かした商品を、中国・韓国・タイ・シンガポールなどアジア諸国および欧米諸国の一部で販売しています。

海外関連会社

カルビーノースアメリカ
（アメリカ）

カルビータナワット
（タイ）

カルビーフォーシーズ有限公司
（香港）

CFSS有限公司
（中国）

青島カルビー食品有限公司
（中国）

烟台カルビー商貿有限公司
（中国）

ヘテ・カルビー
（韓国）

台湾カルビー股份有限公司
（台湾）

カルビーウィングスフード
（インドネシア）

カルビーUK
（イギリス）

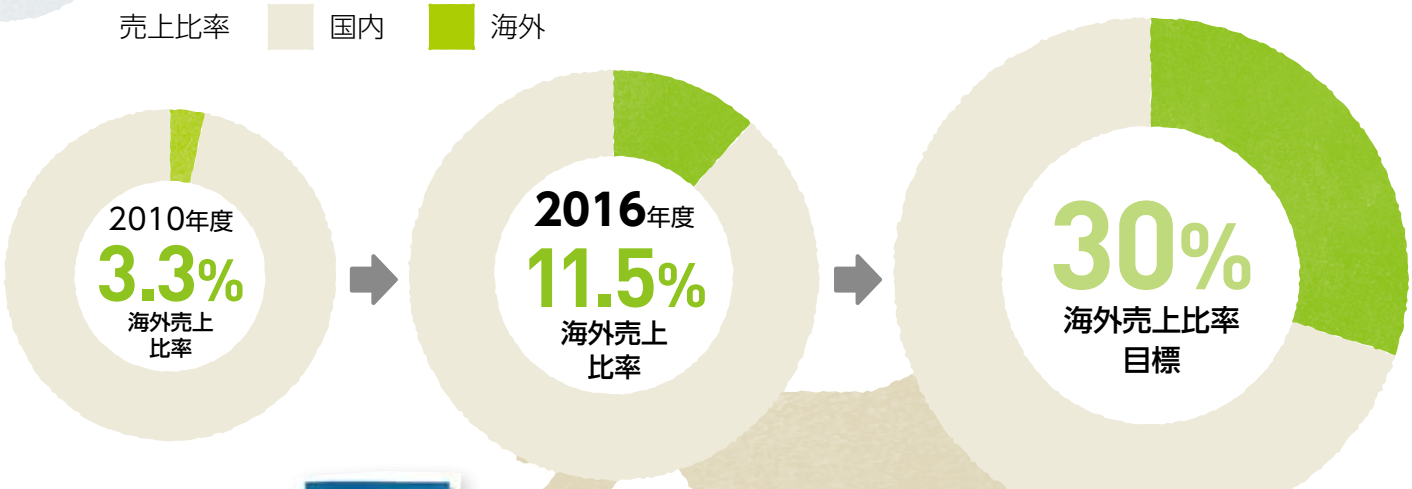
カルビーURC
（フィリピン）

カルビーモウセン
（シンガポール）

カルビーEコマース
（香港）

カルビーオーストラリア
（オーストラリア）

売上比率　国内　海外



TOPICS

インドネシアでの生産・販売がスタートしました

【カルビーウィングスフード(インドネシア)】

2016年8月、カルビーウィングスフードのカラワン工場が操業を開始。ポテトチップス、ポテトスナックを発売しました。新製品のパッケージに日本語を組み入れるなど、ジャパンブランドをアピールし、当初の販売計画を超える発注をいただくなど、ご好評をいただいています。

日本のランドセルがフィリピンで大活躍

【カルビーURC(フィリピン)】

東京の大森ライオンズクラブ主催の『フィリピン ランドセルプロジェクト』は小学校を卒業した子どもたちから預かったランドセルをフィリピンの子どもたちに届ける事業です。日本から送られたランドセル350個が手渡されました。カルビーURCからはJagabeeなど約600人分のお菓子を配らせていただきました。

Calbee Group

数字で見るカルビーグループ

（2016年度実績）

ESG データ

環境の変化に対応しながら、お客様に安心してご利用いただける原料・生産・販売・お客様のお声への全件対応に取り組み、世界中のステークホルダーから、尊敬され、賞賛され、愛される企業を目指していきます。

事業

じゃがいも調達量 約39.6万t ※国内外・製品による仕入含む

国内生産量 約19.8億袋

環境保全

共同配送によるCO₂削減量
785t-CO2

再資源化率
99.6%

顧客満足

お客様からのご相談・ご指摘件数
33,798件

カルビー・スナックスクール受講者数
56,239名

工場見学来場者数
20,159名

社会貢献活動

社会貢献活動参加人数
延べ4,753名

ダイバーシティ経営

従業員数（連結）
3,860名

女性管理職比率（カルビー単体）
24.3%（※2017年4月現在）

海外グループ会社従業員数
1,428名

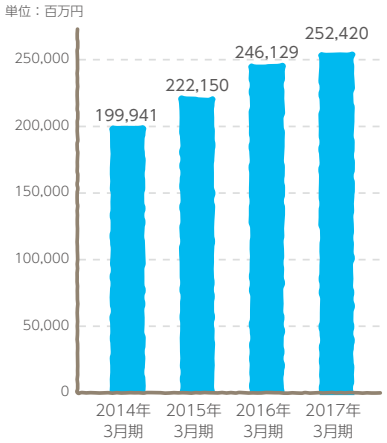
障がい者雇用率
2.16%

財務データ

2016年度は、売上・利益ともに過去最高を更新するも、現状に満足することなく、今後もイノベーションとコスト・リダクションによる事業活動を推進し、競争力を持った強いグローバル食品企業を目指します。

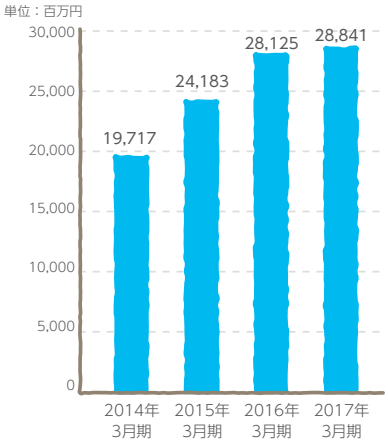
連結売上高
252,420百万円

■ 売上高の推移



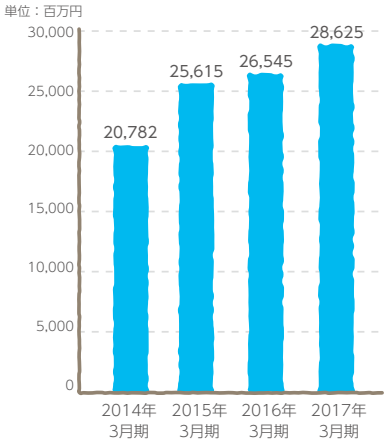
連結営業利益
28,841百万円

■ 営業利益の推移



連結経常利益
28,625百万円

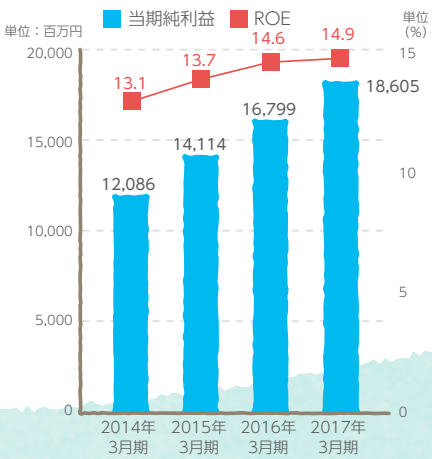
■ 経常利益の推移



親会社株主に帰属する当期純利益
18,605百万円

ROE
14.9%

■ 親会社株主に帰属する当期純利益・ROEの推移

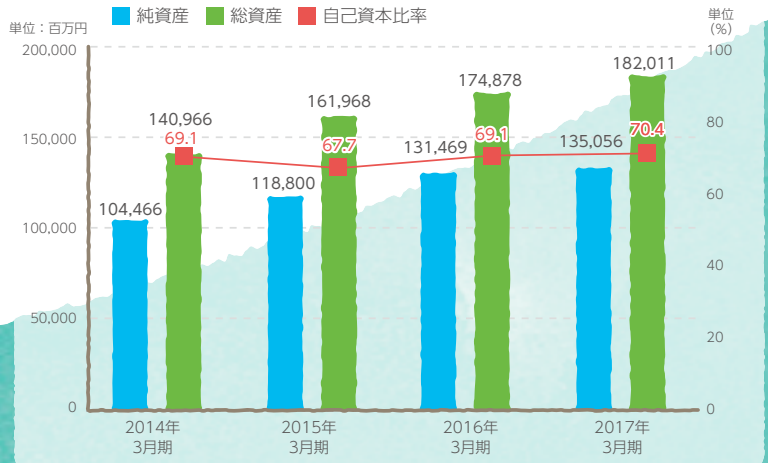


連結総資産
182,011百万円

連結純資産
135,056百万円

自己資本比率
70.4%

■ 連結総資産・連結純資産・自己資本比率の推移



特集 フルグラ®とサステナビリティ

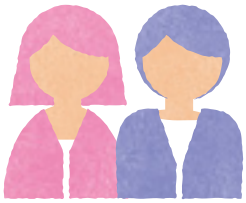
フルグラは「日本の朝食を変える」をコンセプトに、
次世代のカルビーを担う商品として誕生しました。
誕生から26年、フルグラは新しい朝食のカタチとして次第に浸透し、
皆様に愛される商品へと成長しましたが、そこには、
さまざまなチャレンジがありました。

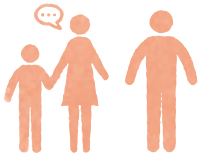
市場創出

関連する取り組み

- 食の安全・安心
  →P.22に掲載

ダイバーシティ





- お客様視点
  →P.26に掲載

コラボレーション

- ライフワークバランス
  →P.30に掲載

- コミュニティとの共生
  →P.35に掲載

栄養改善

持続可能な調達

- 「脱」炭素社会
  →P.42に掲載

食育

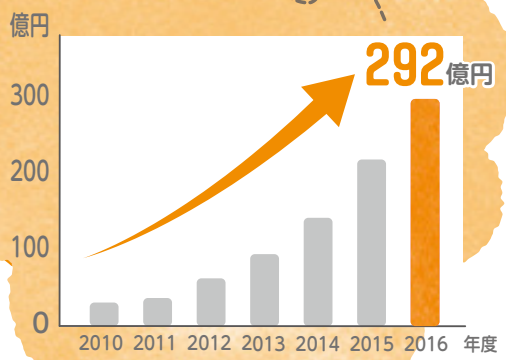
- ゼロエミッション
  →P.44に掲載

【フルグラとサステナビリティ】

イノベーション

これまでの当たり前を
見直してみると、いろいろな
発見がありました

売上約10倍に



シリアルに対する世の中のイメージを変えました

2010年頃までは30億円前後の売上を推移していましたが、商品名を「フルグラ」に変更した頃から毎年拡大し、2016年度は292億円に。「シリアル」という枠を超えて、「朝食」という考え方へチェンジしたことが、大きなターニングポイントでした。

1991年発売当初は
「フルーツグラノーラ」
という商品名でした。

『和』をキーワードに
新しい朝食のスタイルを
提案した「朝食茶屋」

トップと現場が一緒になってさまざまなアイデアを出し合いました

朝食市場に打って出るために会長の松本が2012年に立ち上げたプロジェクトが「フルグラ100」です。ここでは性別や年功序列という考えは捨てて、みんなでいろいろな意見を言い合いました。その結果これまでのカルビーでは考えられなかったような、さまざまなアイデアが生まれました。

職場にフルグラサーバーを置き、自由に召し上がっていただける「置きグラ」

コラボレーションでフルグラの可能性を拡げました

フルグラを多くの人に知っていただくために、さまざまな商品、業種とのコラボレーションに取り組んでいます。フルグラと相性のよいヨーグルトの開発や、ラーメン店やカレーショップとのタイアップメニューなど、これまでのシリアルの常識を変えるコラボレーションに挑みました。

VOICE

試食やサンプリング、レシピ提案、ホテルへの飛び込み営業など、考えられることは何でもやりました

フルグラ事業本部 企画部 部長
網干 弓子

Column

カルビーのイノベーション

スナック菓子といえばお米を使ったあられが一般的だった1955年、貴重だったお米の代わりに小麦を使ってできた「かっぱあられ」がカルビーの原点です。さらに、小エビを使うことで栄養価も向上させた画期的な商品が今も人気の「かっぱえびせん」。こうしたイノベーションのDNA がフルグラにも活かされています。

発売当時（1964年）の「かっぱえびせん」

【フルグラとサステナビリティ】

社会課題への貢献

社会に必要とされ、
そして愛されるフルグラに
なるために

日本のフルグラから世界のフルグラへ

ご好評により需要に対して生産が追いつかない状況が続いていましたが、2016年には清原工場にラインを増設したほか、2017年度に北海道工場にラインを増設、2018年度に京都工場に生産棟を新設予定です。国内だけでなく世界に向けた生産体制が整いつつあります。

流通様や、
営業担当者向けの
工場説明会も
行っています

栄養バランスの良さがアスリートにも喜ばれています

フルグラは栄養バランスに気を使うアスリートにも好評です。マラソン大会をはじめさまざまなスポーツイベントにブースを出展し、サンプル配布を通じてフルグラの良さを知っていただく取り組みを行っています。

フルグラは手軽で、
遠征時には欠かせません。
アスリートにも
オススメです！

リオデジャネイロオリンピック
陸上競技(走り幅跳び)日本代表
甲斐（かい） 好美（このみ）選手

東京マラソンEXPO
(2017年2月23～25日開催)での
配布サンプル数
10,400カップ

カルビーでは甲斐選手のほか、トライアスロン代表※の佐藤優香選手、パラリンピックマラソン代表※の近藤寛子選手へ、フルグラの提供を通じたサポートを行っています。
※リオデジャネイロオリンピック代表

高齢者の栄養改善や「ロカボ※」にも貢献しています

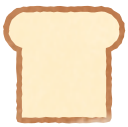
高齢化社会が進み、高齢者の方の栄養摂取という社会課題に対して、フルグラは貢献しています。また減塩効果も期待できるほか、2016年度には生地に大豆たんぱくを使用した糖質オフの商品も発売し、より幅広い年代の方の栄養改善にもお役立ていただいています。

※ロカボとは…「ローカーボ(=低糖質)」、「メタボ」などの解消、さらには「ロウカボウシ」の意味合いまで含まれた造語。1食で摂取する糖質量を定めて、血糖値の上昇を抑えた健康的な生活を心がけましょうというのが基本概念。

● 糖質量

フルグラ
糖質25%オフ
1食(50g)
17.8g

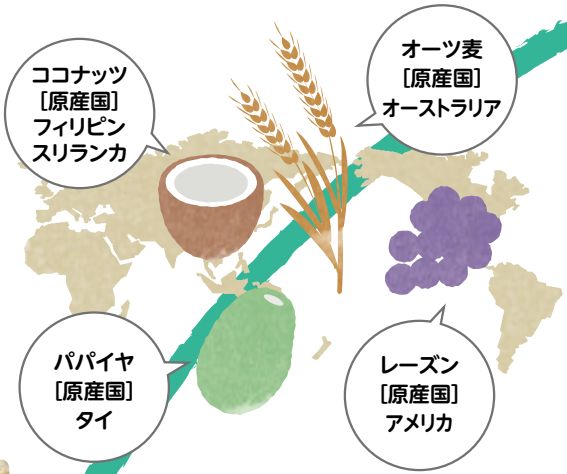
ごはん1膳
55.2g



食パン1枚
26.7g

高品質で安全にこだわった素材を使用しています

フルグラには世界中の厳選された高品質の食材を使用しています。安全性についてはサプライヤー様とともに厳重なチェック体制を整えているほか、安定供給のための調達先の開拓は継続的に行っています。



りんご・いちご・かぼちゃの種についても栽培先まで遡ってトレーサビリティーを確保した原料を使用しています。

このプロジェクトに参加した小学生の間で人気だったレシピが実際に商品化されました。

朝食文化を豊かにする活動を行っています

NPO法人日本トイレ研究所と栄養・睡眠の専門家との連携により、楽しい朝づくりを通して子どもの生活習慣改善を目指す「朝ハロしよ!プロジェクト」を実施しました。フルグラのトッピングをいろいろ試したり、楽しみながら朝食の大切さを学んでいただきました。

フルグラ事業本部トップにきく

フルグラの今、そしてこれから

フルグラ事業本部 本部長

藤原 かおり

profile

広告代理店、外資系食品メーカーのブランドマネージャーなどを経て、2011年カルビーに入社。12年よりフルグラのマーケティングに携わり、17年4月より現職。15年12月には日経WOMAN（株式会社日経BP社）主催「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2016」において、「ベストマーケッター賞」を受賞。

Q 2016年度は売上292億円となりました。

A 2015年までは需要に生産が追いつかず、お客様にも生産現場にもご迷惑をおかけしていました。2016年度に清原工場の生産ラインが増設されたことで課題が解消され、その結果、売上が上がったことはとても嬉しいですね。また現場のモチベーションも上がっていると思います。

Q さらにフルグラを皆さんに知っていただくために、どのようなことに取り組んでいますか。

A まだまだフルグラの事をご存じない方も多いですし、シリアルに対してあまり良い印象をお持ちでない方もいらっしゃると思います。そういう方に対して、少しでも多く出会いの場をつくっていきたいですね。例えば2016年11月には東北で「減塩」をテーマにしたイベントを開催しました。このような草の根的な活動を続けていくとともに、自治体を巻き込んで全国的な運動にしていく、ということも仕掛けていきたいです。

Q フルグラ事業本部を「ダイバーシティ」という観点から見るといかがですか。

A 女性男性関係なく目標に向かって一丸、という感じですね。
企画部長は育児をしながらがんばってくれていますし、他にも外国人などさまざまなメンバーがいることで、多様なアイデアが生まれ成果につながっています。

Q 現在の課題は何でしょうか。

A 生産量も多くなり、量と品質を今の高い水準で維持できるか、というところです。特に主原料であるオーツ麦を将来的にどう確保していくか、という課題は調達部門とも連携して、継続的に取り組んでいくべきだと捉えています。また気候変動による調達リスクも大きな課題です。現在はこのような問題にどう対応していくか、体制を整えているところです。

Q 社会的な価値、という点からフルグラをどう評価されていますか。

A お客様から「フルグラのお陰で健康でいられる」「フルグラだと食べてもらえる」といった声をいただくと本当に幸せに思いますし、そういう方を一人でも多く増やしていくことが私達の役割だとも思っています。近い将来、日本以外の栄養状況があまり良くない国にフルグラが普及して、その国の健康状態が改善されたら、と思うと、ワクワクします。

Q 今後チャレンジしたいことはありますか。

A 例えば北海道の原料を使ったご当地自慢の商品などを開発してみたいですね。地産地消であったり、生産者との協働であったり、それが地域の元気を生みだすきっかけになればいいと思います。また、目下の課題はやはり海外展開です。世界中の方にフルグラを愛していただけるようがんばります。

SDGsとの関連

品質を高める取り組み

お客様に、安全で安心していただける商品をご提供し続けるために

お客様の安全・安心を最優先に製品づくりを進めています

品質マネジメント体制

カルビーでは、原材料の安全性や法令適合、パッケージ表示などを審査する「品質審査部」と、ルール通りに生産されているかチェック・改善支援を行う「品質監査部」から成る「品質保証本部」を中心に、食の安全・安心を守る体制を整えています。
社内だけではなく、社外の生産者や調達先とも連携し、サプライチェーン全体で品質を保証するための取り組みを行っています。

Point

流通業者様に対応する専門部署

流通業者様からのお問い合わせに対応する専門チームとして、品質監査部内に広域営業サポート課を設置しています。工場と売り場をつなぐ役割を果たしています。

A・A・O（エイ・エイ・オー）活動

過去に発生した製品事故を教訓として、「事故を起こさない」「日々の作業は何のために行っているのか」など食の安全に関する心構えを再確認するために異物混入や印字不良などの防止に取り組む全社キャンペーンを毎年開催しています。2016年度も生産、物流、販売など全部門で取り組みました。

Point

A・A・O活動を通じた「みちのく未来基金」への寄附

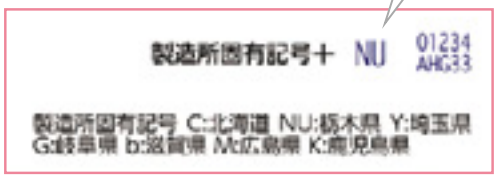
カルビーは2014年からA・A・O活動の実施にあたって、参加した人数に応じた金額を「みちのく未来基金」へ寄附しています。「みちのく未来基金」は、カルビーが設立メンバーとして参画している「東日本大震災で親を亡くした震災遺児たちの高校卒業後の進学支援を行うための奨学基金」です。2016年度の第3回A・A・O活動では、寄附ルールに基づいて前年の倍以上となる1,515,700円を寄附することができました。

お客様に正しい情報を わかりやすくお伝えします

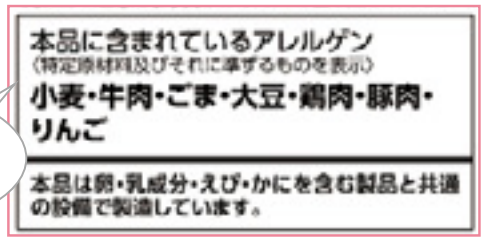
新しい食品表示制度への対応

2015年4月1日から施行された食品表示への対応として、パッケージ表示の変更を進めてきました。法的には5年の猶予があるものの、お客様への安全を第一に2016年度中に全ての表示・パッケージを新表示に切り替えました（一部プライベートブランド商品などを除く）。
そのほか、年2回、食品表示に関する知識やスキルを高めるための勉強会を実施しています。

製造工場所在地を分かりやすくしました



アレルギー表示をより分かりやすくしました



じゃがいも丸ごと! プロフィール

Point!

トレーサビリティ

カルビーホームページでは、ポテトチップス商品を対象に、じゃがいもの生産情報を公開しています。

食物アレルギーなどへの対応

カルビーグループでは、各部門が連携し、食物アレルギーへの対応やアクリルアミド※の軽減に取り組んでいます。2013年度に「特定原材料（アレルゲン）に関する方針」を策定し、製品カテゴリーごとの使用アレルゲンの共通化などのルールを定めているのをはじめ、工場ではアレルゲン対策を含めた「清掃基準書」に沿った清掃を徹底しています。また、コンセプトショップでは、販売するメニューにアレルゲンを表示しています。
アクリルアミドについては、じゃがいも加工食品における生成に関する基礎的研究を続けており、学会や論文の発表を通して情報を発信しています。

VOICE

全社をあげてミスの無いよう注意深く取り組みました

食品表示法への対応は短い期間にほぼ全ての商品のパッケージ表示を改定しなければならないという全社横断の大プロジェクトでした。ひとつ間違えるとお客様の生命にかかわるミスの許されない仕事です。印刷業者様とも丁寧に情報を共有し、手順を確認しました。社内デザイナーの作ってくれたパッケージマニュアルがとても役に立ちました。

品質保証本部 品質審査部
食品法令課 課長
渡邊 典子

※アクリルアミド
食品中で、主にアミノ酸の一種であるアスパラギンと還元糖であるブドウ糖、果糖などが加熱によって反応し、意図しないにもかかわらず生成される物質。国際機関では、化学物質として「人に対して、おそらく発がん性がある」と分類されていますが、人が食品中のアクリルアミドを経口摂取した際の影響については確認されていません。

「監視」ではなく「協働」によって カルビー品質を守ります

ミスを発生させないための仕組みづくり

生産工程におけるフードディフェンス（異物混入防止）の徹底をはかるためのモニタリングカメラの導入や、パッケージと中味が異なるという不具合を無くすために、ICT（情報通信技術）を活用した照合システムを活用するなど、安全・安心を守るための仕組みや技術を積極的に導入しています。

作業ミス防止照合システム

◀ 作業ミス防止照合システムで読み取るフィルムに記載されているコード

包装工程における作業ミスを防止するために、スキャナーを使ったチェックシステムをポテトチップスや生地スナックの全生産ラインに導入しています。
2016年度はシステムの精度をより高めるとともに、チェックの内容を分析しその改善を促す仕組みづくりを行いました。

モニタリングカメラ

● モニタリングカメラ導入数 約1,000台

全生産拠点に生産ラインを監視するモニタリングカメラを導入しています。これは工程不良の範囲の特定や作業効率の分析・改善にも役立てています。

カルビーグループ 自主回収にあたっての基本方針

① 顧客優先　新たな被害者を出さない
② 情報開示　会社にある情報は隠さず公開する
③ 率先垂範　トラブルから逃げず、トップマネジメントは率先して問題解決にあたる
④ スピード　他の全ての仕事に優先して、出荷された商品の回収をはかる
⑤ 再発防止　再び同様の問題を起こさない

● 2016年度の重大事故による自主回収件数 0件

▲カルビープラス　ららぽーとEXPOCITY店（大阪）

コンセプトショップの品質管理

全国各地に展開中のカルビーのコンセプトショップにおいても、材料や製造方法の安全など、工場と同じ品質保証体制・品質監査の手順が適用されています。また、店内で調理した商品を販売する店舗もあります。「食中毒の防止」など店舗ならではの課題に対応するため、基準の策定や店長・従業員への教育などを進めています。2016年度は、全拠点の監査を行い、課題の抽出、そして改善、運用というPDCAシステムの導入を行いました。

食の安全・安心を守る人財の育成を進めています

カルビー品質をより高い次元で継承するための教育プログラム

かっぱえびせん、じゃがりこ、Jagabeeなどそれまで世界のどこにもなかった商品を生み出してきたカルビー。
その仕事はまるで厨房で料理をつくる職人に近いものです。職人の技を次世代に継承するため、さまざまな学びの機会を設けています。

原理原則教育(キーマン教育)の実施

● 実施回数 **13回**

カルビーが目指すおいしさ・品質を実現するために不可欠な原理原則を学ぶため、全社の生産設備や製造技術を網羅的に学ぶことができる人財育成プログラム。各現場での技術の指導役となるキーマンの養成も目的としています。
2016年度は60名(うち女性23名)が受講しました。

海外支援者向けオリエンテーションの実施

カルビーならではの商品の製造には独特のノウハウがあります。海外グループ会社の製造現場に日本のメンバーが指導に行く場合も多くあります。現地で安全に支援・指導が行えるように、事前にオリエンテーションを実施しています。
2016年度は10名が受講しました。

次世代品質保証リーダーの育成

カルビーの次世代の品質保証リーダーとして求められるスキルを見える化したマップに従い、自主的かつ効果的に学習を推進できる仕組みを構築しています。

ものづくりワークショップ研修の実施

生産技術・研究開発の各部門、工場長や製造課長等の職種で活躍を目指す従業員を対象に、固有技術や加工原理を伝承できる人財教育を実施しています。前年度の受講者が講師を務めたり、海外支援メンバーとして活躍するなど、仕組みとして定着しつつあります。
2016年度は12名(うち女性1名)が参加しました。

VOICE

普段の作業には一つひとつ意味があることを学んでほしい

製造現場のキーマンたちに製品を手づくりする体験をしてもらい、そこから製造工程の原理原則を学んでもらっています。受講者たちから「これまで思い込みでやっていた作業を一から考え直す機会になった」「習ったことを現場で試してみた」という声を聴くと本当にうれしいです。受講者が今後、次の世代に自分の言葉とやり方で伝承していってくれることが願いです。

研究開発本部
グローバルスタンダード課 課長
安山 めぐみ

Webでご覧いただけるその他の取り組み http://www.calbee.co.jp/csr/social/

SDGsとの関連

お客様の声を聴く取り組み

お客様とのエンゲージメントの機会を大切にしています

カルビーを愛してくださる お客様との関わりを大切にしています

カルビーファンづくり

グループビジョンで「お客様第一」を掲げるカルビーでは、お客様に愛される商品のために、積極的にコミュニケーションの機会を設けています。お客様との協働による商品開発など、よりお客様との接点を増やす取り組みを行っています。

お客様の声から生まれた「減塩かっぱえびせん」

お客様からの「かっぱえびせんは好きだが、塩分が気になる」とのご意見にお応えして減塩タイプの「かっぱえびせん」を発売しました。

Webを通じたコミュニケーション

カルビーではウェブサイト上にさまざまなコンテンツを用意して、お客様とのコミュニケーションを深めています。
2004年12月に設立した「カルビーサポーターズクラブ」は2017年1月にリニューアルをして「カルサポ！」となりました。
商品や店頭、メディアなどのさまざまな接点でカルビーのファンとなってくださったお客様が集うコミュニティサイトです。
「Happyな日常のそばにカルビーがあること」をテーマに、社内外部署と連携を取りながら、カルビーファン同士や、お客様とカルビーが、活発にコミュニケーションを行っています。
約71万人の会員様には、カルビーを“知って”“体験して”“語って”いただけるプログラムをご提供しており、契約農家での収穫体験「じゃがいも掘り」や、ご自宅での栽培体験「じゃがいも見守り隊」、工場見学「カルサポ！DAY」、商品を周囲の方にすすめていただく「商品オススメ隊」や「カルサポ・インタビュー」などにご参加いただいています。
また、お客様がお使いのそれぞれのSNSを接点にカルビーを知って楽しんでいただけるよう、FacebookやTwitter、Instagram、LINEなどの公式アカウントを運営しています。

▲カルサポ！のトップページ

▲カルビー公式Facebook

▲カルビー公式Twitter

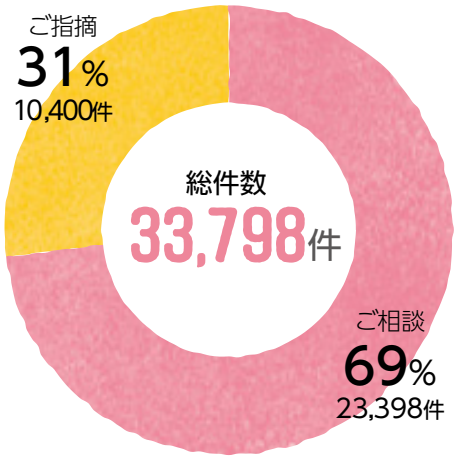
カルビーにとって最重要である お客様の声を全社で共有しています

お客様の声を共有するしくみ

カルビーでは、お客様相談室を「カルビーのファンづくり」の場として、積極的にお客様とのコミュニケーションを深めています。本社以外に全国7エリアにもそれぞれ相談室を設け、個々のご相談やお声に対し、真摯に応対できるような体制をつくっています。
いただいた声の一部は、全社にメールで配信されるほか、重大なご指摘については、経営トップへすみやかに報告される仕組みが構築されています。

▲お客様相談室

■お客様からの相談件数別内訳



お客様の声のモニタリング

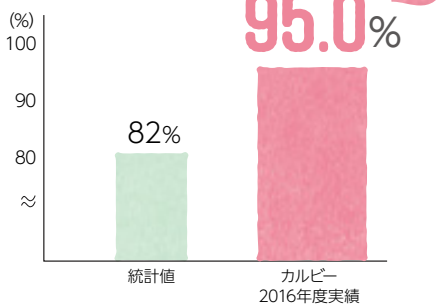
お客様相談室にいただく声を従業員と共有し、自分事として捉えるための取り組みを行っています。2016年度は初の試みとして全13工場で開催しました。自分たちがつくっている商品に対して、直接ご意見をいただけるということで、真剣に耳を傾ける姿が見られました。

▲湖南工場でのモニタリングの様子。
計222名が参加しました。

Point!

ご指摘をいただいた方の95%から、今後も購入いただけるとのご回答をいただきました。

■再購入率



VOICE

自身の仕事がお客様の喜びにつながると実感しました

電話対応するコミュニケーターの温厚な話し方に感心しました。お客様の肉声を聞き、自分たちの仕事がお客様に大きな感動を与えることを実感し、とてもうれしくなりました。一方、ご期待と違う商品をお届けしてしまった場合、お客様を失望させ、信頼を失うことになります。日々頑張って良い商品をつくろうと思いを新たにしました。

お客様の声のモニタリング受講者

Webでご覧いただけるその他の取り組み http://www.calbee.co.jp/csr/social/customer.php

SDGsとの関連

お取引先様のために

サプライチェーンに関わるすべての皆様とともに、持続可能なものづくりを追求

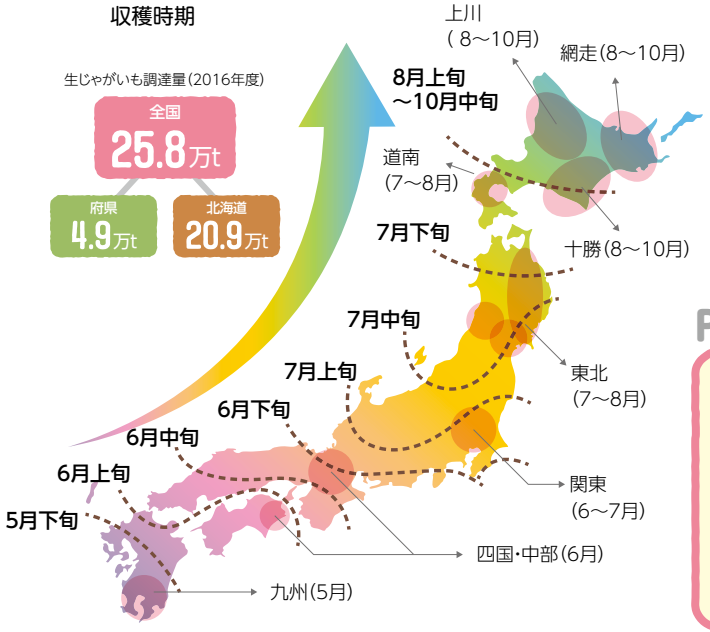
リスクに負けない強い調達のしくみをつくります

持続可能な安定調達

ポテトチップスをはじめカルビーの主力商品のいくつかは生のじゃがいもからしかつくることができません。そのためほとんどの原料を国内産に頼っています※。その約7割は北海道産で、秋に収穫したものを翌年初夏まで貯蔵して使います。2016年8月の台風により、北海道の農作物が大きな被害を受けました。このため貯蔵じゃがいもを充分に確保することができず、いくつかの商品を休売せざるを得なくなりました。地球規模の気候変動により自然災害は今後増加するであろうと予想されます。カルビーの生命線ともいえる、じゃがいもの調達については生産者様とより密なパートナーシップを築き、中・長期で対策を講じます。

※カルビーでは植物防疫法で定められたルールのもと、米国産じゃがいもを輸入しています。日本ではカルビー広島工場、鹿児島工場の2工場に限り輸入じゃがいもの加工が認められています。

■主要な国内じゃがいも産地と収穫時期



カルビーグループが取り組んでいること

持続可能な原料調達、とりわけじゃがいもの調達については、生産者、行政、大学、同業のメーカーなどと密なネットワークを構築し、さまざまな取り組みをしています。

①新品種の開発

自社での新種開発、海外で利用されている品種の導入に常にチャレンジしています。おいしいポテトチップスに適し、かつ病害虫に強く、保存に適したじゃがいもは私たちにとって夢の作物です。

②生産者の労働軽減の支援

生産者にとって大きな負担になっている収穫、倉庫への運搬の支援をしています。全量を仕入れ、選別の手間を省いています。

③生産者への情報提供

気象センサーのデータ、産地を巡回するフィールドマンが集めた栽培データ、栽培に関する最新情報などを生産者と共有しています。品質、数量ともに安定したじゃがいもは両者の協力の成果です。

④海外技術者や研究施設とのコラボレーション

経験や勘に頼った生産から、科学的農業へ。最新の情報を取り入れ、ともに学んでいます。

ポテトフォーラム ▶

生産者や行政、メーカーなどが集まり、じゃがいも生産に関して情報交換を行います。
2016年度は395人が参加しました。

◀ カルビーポテト初の自社育成品種『ぽろしり』が、2016年度より使用開始となりました。

Point !

パーム油産地での取り組み
(不二製油グループ様の取り組み)

カルビーグループにパーム油を供給している不二製油グループ様は、2016年に「責任あるパーム油調達方針」を公開し、2020年までに搾油工場までの100%トレーサビリティを目指しています。また、産地NGOと協働して小規模農家の農業慣行を改善する活動を推進しています。

▶ マレーシアでの勉強会風景
撮影:Ted Kelvin Sudin/Wild Asia

互いに支え合い、高め合うパートナーシップ関係を構築しています

CSR調達ポリシーを策定

カルビーグループでは、従来から購買基本方針を策定し、お取引先様との対等なパートナーシップの構築に努めてきましたが、よりグローバル視野での調達活動を進めるためにふさわしいガイドラインとして、新たに「CSR調達ポリシー」を策定しました。

■カルビーグループ CSR調達ポリシー

1. 法令・社会規範の遵守
2. 人権への配慮
3. 労働への配慮
4. 環境への配慮
5. 品質・安全性の確保
6. 情報セキュリティへの取り組み

パートナーシップ・ミーティングを実施

カルビーグループでは、お取引先様との情報交換・意見交換のための機会を積極的に設けています。2009年度より「パートナーシップ・ミーティング」を開催し、経営トップによる経営方針の説明、部門責任者による購買方針やガイドラインの説明をしています。2016年度は83社のお取引先様にご参加いただきました。
また、このミーティングでは、お取引先様とカルビーとの協働事業として、目覚ましい成果を上げていただいたお取引先様をベストパートナーとして表彰するとともに、事例発表も実施しています。
こういった直接的な対話を通じて、お取引先様とのリレーションをさらに深め、共に事業を通じた社会課題の解決に努めていきます。

2016年度ベストパートナー

東京ガス様との取り組み

国内初の協働プロジェクトである「工場間一体省エネルギー事業」※(本誌P43参照)を通じて、世界規模の課題でもある省エネやCO_2削減による環境負荷低減。また、エネルギーの安定供給によるBCP(事業継続計画)の強化を推進しています。

VOICE

複数の企業との協業による取り組みで、より大きな省エネ効果が期待できるほか、災害時におけるBCP対策としても貢献できるシステムです。省エネ施策は当社にお任せいただき、本業に専念していただけるものと確信しています。

東京ガス株式会社
執行役員　産業エネルギー事業部長
高木 信以智 様
産業エネルギー事業部
産業営業グループ　副部長
菅原 一浩 様

日本食品化工様との取り組み

シリアル製品の原材料として欠かすことのできない食物繊維素材は、これまで粉末化されたものでした。シリアル市場が拡大する中、液状原料の導入にあたり協働の取り組みをしたことで、社内における溶解作業の低減や品質も含めた安定生産が実現しました。

VOICE

シリアル製品の大ヒット、それに伴う課題である生産性の向上に寄与できるよう、両社で意見を交換し実現させることができました。今後も品質向上に努め、シリアル製品の市場拡大に貢献できるよう取り組んでまいります。

日本食品化工株式会社
代表取締役　社長執行役員
鈴木 慎一郎 様
研究所長
農学博士　高田 正保 様

※工場間一体省エネルギー事業：複数の既設の工場間において、生産ラインの統合やユーティリティーの共有によるエネルギーや生産品などの相互融通により、一体となって省エネルギーを行う事業

Webでご覧いただけるその他の取り組み http://www.calbee.co.jp/csr/social/trader.php

SDGsとの関連

従業員のために

すべての人財が自立的に成長し、能力を発揮できる企業風土を目指して

すべての従業員がイキイキと輝き 個性や能力を発揮できる企業をめざしています

人と組織の成長を支えるC&A

すべての従業員は、会社に対して、成果を約束し、それを達成する責任があります。カルビーグループでは、その仕組みをコミットメント&アカウンタビリティ(C&A)と呼んでいます。C&Aを活用して、成果を出し続ける人財を育成していくことで、強い組織づくりにつなげていく取り組みを行っています。

VOICE

個人が成長しないと会社は成長しません

個人の成長=能力×モチベーション。人事のミッションのひとつは、能力やモチベーションを高める制度や仕組みを用意することです。C&Aは従業員一人ひとりが成果を約束し、その成果に応じて賞与が決まる仕組みです。成果を出すという厳しさを求めながら、その成果を出すための温かい支援を惜しまないように、新たな人事制度の構築を目指しています。

上級執行役員(人事総務本部ほか担当) 外波山 昇志

■2016年度の新設制度や取り組み

ライフキャリアプラン	人事面談制度
採用・育成	ベンチャーチャレンジ制度
評価・報酬	新・営業報酬制度改定
福利厚生	ヘルスケア委員会設立
カルチャー	両立支援制度

人事の新しい制度や仕組み

「自立的に成長し成果を出し続ける人・組織」になるための支援制度を充実させることを取り組みの基本としています。そのため、キャリア育成や評価報酬、福利厚生など、すべての従業員が自主的に能力を発揮しやすいような、さまざまな支援制度を充実させています。

「Calbee Award 2015」開催

「Calbee Award」は年間の業績や会社の成長に貢献した従業員を表彰するイベントで、2016年度は福岡で開催、カルビーグループから約600人が参加しました。14チームが活動報告を行い、参加者とともに多くの学びや気付きを共有する機会となりました。

企業の成長には従業員とその家族の健康が不可欠です

カルビーグループ健康宣言

掘りだそう、豊かな未来。
私も家族も同僚も、互いの健康思いやる。
健康こそ、イキイキ活躍の原動力、
私と Calbee の成長をドライブします。
「ライフ」も「ワーク」も、やめられない、とまらない。

カルビーグループ健康宣言

カルビーグループの継続的な成長は従業員の成長、そして従業員とその家族の健康なくしては実現しないとの考えから、2016年10月に「カルビーグループ健康宣言」を制定しました。心身ともに健康で、やる気とチャレンジ精神を持って、明るくイキイキと働ける状態を目指して、健康維持・増進活動に取り組んでいきます。

「ヘルスケア委員会」発足

健康経営を着実に推進するため、2016年4月に「ヘルスケア委員会」を発足しました。カルビー健康保険組合の事業として「人間ドック」「女性の乳がん検診」「子宮頸癌検診」を、35歳以上の社員とその被扶養配偶者は無料で受けることができるなど、さまざまな支援制度を設定しました。また、「フルグラ」を従業員に配付して朝食摂取を推奨したほか、禁煙外来補助などによる健康増進活動にも取り組みました。

朝食を食べよう！キャンペーン

朝食の大切さを説明したリーフレットとともにカルビー健保組合より、加入者全員にフルグラ4種セットを送りました。

マイヘルスレポートを発行

健康診断の結果から、一人ひとりへのアドバイスを作成し配付しました。

健康経営優良法人2017認定

健康保険組合などと連携した健康への取り組みや、従業員の健康課題の把握と必要な対策を検討し、健康経営の実践に向けた基礎的な土台づくりとワークエンゲイジメントを行っていることが評価され、経済産業省・日本健康会議が新設した健康経営優良法人認定制度※において「健康経営優良法人2017（大規模法人部門）～ホワイト500～」に認定されました。

2017 健康経営優良法人 Health and productivity ホワイト500

※健康経営優良法人認定制度
健康経営に取り組む優良な法人を「見える化」することで、「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人」として社会的に評価を受けられるよう表彰する制度

VOICE

率先垂範で健康経営を進めます

中性脂肪の数値が高く、主治医の先生から「まずは体重を落としてください」と言われました。約6ヶ月間で体重を7kg落とした結果、30年ぶりに人間ドックのすべての数値がAになりました。悪い習慣をやめて、良い習慣を身につけなければ良い数字、成果は出ない。私たちの仕事も同じことだと思います。

代表取締役社長 兼 COO
伊藤 秀二

Webでご覧いただけるその他の取り組み http://www.calbee.co.jp/csr/social/employee.php

SDGsとの関連

ダイバーシティの取り組み

ダイバーシティを成長力とする企業をめざしています

多様性なくして カルビーの成長はありません

▲ダイバーシティ活動のロゴマーク

多様性を活かした企業風土づくり

「女性の活躍なしにカルビーの成長はない」という方針のもと、2010年に結成された「ダイバーシティ委員会」を中心に、多様性を活かす組織・風土づくりを進めています。女性だけでなく、外国人・障がい者・シニア世代など、すべての従業員が、ライフ（個人の生活）とワーク（仕事）のバランスをとりながら、イキイキと働けるよう、支援制度等の充実に取り組んでいます。

カルビーダイバーシティ宣言

掘りだそう、多様性。
育てよう、私とCalbee。
互いの価値観を認めあい、最大限に活かしあう。
多様性こそCalbee成長のチカラ。
「ライフ」も「ワーク」も
やめられない、とまらない。

■多様な人財の活躍・働き方を支援する制度

多様な働き方への支援制度	半日休暇	フレックスタイム	モバイルワーク	退職者リターン希望エントリー
家庭と仕事の両立支援制度	育児休業	育児短時間勤務	配偶者出産時休暇	子の看護休暇
	介護休業	介護短時間勤務	家族の介護休暇	
家庭と仕事の両立のための費用補助制度	早く帰ってきてくれてありがとう感謝金（早期復帰感謝金）	学童準備金（フルタイム勤務への準備金）	小学校入学祝金	カフェテリアプラン5倍補助
	不妊治療費用補助	出産一時金		
多様な人財の活躍を支援する制度	LGBTに配慮した制度			

VOICE

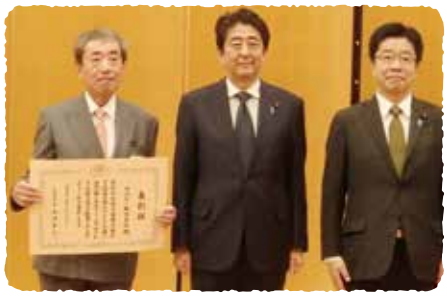
営業でも、男性でも 育児休業できます

2016年8月から2017年2月まで、半年間の育児休業を取得しました。とても貴重な経験の連続で、ここで得られる感動は何にも代えがたいものでした。ぜひ皆さんにも体験してほしいと思います。夫婦の関係もより深まります。近い将来には、男性の育児休業が当たり前の会社となってほしいですね。

東日本事業本部
首都圏第一支店 営業2課
井上 寛規

ダイバーシティに関する受賞

女性が輝く先進企業表彰「内閣総理大臣表彰」



2014年度の「内閣府特命担当大臣賞」に続いての受賞となりました。

JAPAN WOMEN AWARD2016

国内企業の人事担当者や経営者、キャリア女性1,000人へのアンケートの結果、総合ランキング1位となりました。

男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰

多年にわたり男女共同参画社会に向けた機運の醸成に功績した方や、実践的な活動を積み重ね男女共同参画の推進に貢献してきた方などが表彰されています。会長の松本が受賞しました。

「なでしこ銘柄」選定

4年連続
選定

女性の活躍に優れた企業を経済産業省と東京証券取引所が共同で選定する「なでしこ銘柄」。今回は、ライフワークバランスの推進や女性活躍推進への取り組みなどが評価されました。

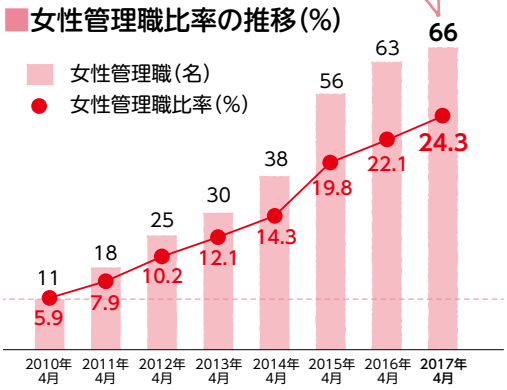
女性活躍推進法に基づく優良企業認定

2016年4月1日に施行された「女性活躍推進法」。その優良企業として最も基準が厳しい最高位の3段階目に認定されました。

女性の活躍推進

●2017年4月現在
24.3%
2020年目標 **30%**

■女性管理職比率の推移(%)



女性のエンパワーメント原則(WEPs)への署名

2017年4月、国連グローバル・コンパクト(UNGC)とUN Womenが共同で作成した、女性の活躍推進に自主的に取り組む企業の行動原則である「女性のエンパワーメント原則(WEPs)」に署名しました。WEPsの7つの原則に基づき、女性が社会的にその力を発揮できる労働環境・社会環境を整備することへの意志を示し、今後も女性活躍推進に取り組んでいきます。

すべての従業員がイキイキと活躍できる職場環境の実現をめざします

イクボス宣言

カルビーは2016年6月14日に、特定非営利活動法人ファザーリング・ジャパンの主催する「イクボス企業同盟」に加盟し、調印式にて会長の松本と社長の伊藤が「イクボス宣言」を行いました。同同盟は、積極的に管理職の意識改革を行って、新しい時代の理想の上司(イクボス)を育てていこうとする企業のネットワークです。
部下のライフとキャリアを応援するばかりではなく、自ら率先してライフワークバランスを満喫し、かつ組織の目標を達成する、そんな管理職をめざします。

▲ファザーリング・ジャパン代表理事の安藤哲也さんと理事の川島高之さんを招き、調印式を行いました。

▲役員によるイクボス宣言署名

カルビーイクボス宣言

掘りだそう、可能性。育てよう、メンバーと私。
個人の価値観を尊重し
ライフとワークを応援します。
一人ひとりの活躍こそ Calbee 成長のチカラ。
「ダイバーシティ」も「イクボス」も
やめられない、とまらない。

LGBT※1への取り組み

▲カルビーLGBT Ally ロゴ

LGBTへの理解を促し、LGBT従業員も働きやすい職場環境を実現するため、一部制度の改訂や社内セミナーなどの実施を順次行っています。セミナーでは、LGBTに関する基礎知識に加え、具体的な事例も交えた言動への対処方法などを伝えています。社内報や社内イントラネットでもLGBTへの理解促進のための情報発信を行っています。また、カルビーアライ(Ally※2)マークも作成しました。LGBTにポジティブな職場環境をつくるために、当社としてできることを検討し、取り組みを進めていきます。

※1 LGBT:レズビアン(L=女性同性愛者)、ゲイ(G=男性同性愛者)、バイセクシャル(B=両性愛者)、トランスジェンダー(T=性同一性障がいを含む生まれた時の体の性と心の性が一致しない人)の頭文字
※2 Ally:LGBTを理解・支援する人

「カルビーグループダイバーシティ・フォーラム2016」開催

毎年11月をカルビーグループのダイバーシティ月間と定め、ダイバーシティの理解を深めるさまざまなイベントを実施しています。その一環として、「カルビーグループダイバーシティ・フォーラム」を毎年開催しています。
2016年度は石川県金沢市にて「未来を拓くチカラ」をテーマに開催。全国から約300名の従業員が参加し、ダイバーシティについての理解を深める1日となりました。

Webでご覧いただけるその他の取り組み http://www.calbee.co.jp/csr/social/diversity.php

地域社会のために

地域、世界から愛されるカルビーになるために

従業員一人ひとりが自らすすんで 地域のために汗をながしています

カルビーグループ社会貢献 ミッションステートメント

私たちカルビーグループ従業員は、良き市民として、
私たちが生活し、働いている地域社会、
さらには全世界の共同社会に貢献します。

社会貢献活動方針

私たちは地域のお客様のご支援・ご理解により、事業を継続しています。工場や事業所においても、その地域に暮らす人々との共生は欠かせません。
カルビーグループは各事業体に社会貢献委員会を組織し、地域貢献に取り組んでいます。「地域に密着して、汗をかく活動をする」ことを方針に、従業員自らが地域社会への貢献を考え、行動しています。

2016年度も全国の地域事業本部、グループ会社において自主的な社会貢献活動が実施されました。
従業員一人ひとりが他者に貢献できる人財に成長することは、カルビーグループの継続的な成長に欠かせないことです。また、グループビジョンに掲げる「コミュニティから愛される企業」になるために不可欠なことです。
今後も、社会貢献活動の3本柱である「子育て支援」「地域への支援」「環境の保護」にもとづき、子どもたちへの教育・コミュニケーションや食育活動、スポーツ振興のほか、環境保全活動や災害復興支援など、積極的に取り組んでいきます。

▲カルビー・スナックスクール授業風景

自立的な実行力で地域貢献　北海道事業本部の例

2016年度、北海道事業本部では【地域の社会福祉行事への参加】、【“食”を通した活動】を基本方針に行事を計画・実施しました。実際に汗をかいて活動し、地域住民の方々に喜んでいただきました。

札幌「にじ色こども食堂」の支援をしています

SDGsとの関連

札幌市内で開催されている「にじ色こども食堂」は、困難な状況にある子どもや親たちに「温かい手づくりの晩ご飯」「みんなで囲む賑やかな食卓」を月2回安価で提供しています。2016年度から毎回カルビーメンバーがお菓子を持参して訪問し給仕を手伝ったり、子どもたちとのおしゃべりを楽しんだりしています。地道な活動ですが、誰もが笑顔で食卓を囲めることを願って継続します。

大勢の参加で玄関は靴でいっぱい▶

南富良野災害支援ボランティアに参加しました

SDGsとの関連

南富良野町は8月の台風10号や大雨による河川の氾濫で、多くの住宅が床上・床下浸水し、広範囲の農地が冠水して、じゃがいもをはじめ多くの農作物が被害をうけました。私たちも道内に住む仲間としてボランティア活動に2週連続で参加し、被害の大きさを目の当たりにして、言葉を失いました。作業の最後に農家の方から「来年への明るい兆しが見えてきた」という挨拶をいただき救われました。

ミナミナの森　植樹と下草刈りをしました

SDGsとの関連

ミナミナの森活動は台風で失われた支笏湖周辺の森を取り戻すため5年前にはじめました。自然に近い人工林の育成を目指して数種類の苗木を約2,000本植樹しましたが、苗木の種類により鹿や野ネズミの食害や生育不良で枯れた木が多くあり、今回植え替えを行いました。次世代に豊かな森が残せるよう、今後も継続していきます。

カルビーグループの1年間の社会貢献活動（抜粋）

	2016年4月	5月	6月	7月	8月	9月
子育て支援	●熊本県益城町こどもおやつ教室（西日本）	●下谷神社祭礼こども神輿協賛（東日本）	●福島県食育推進全国大会ブース展示（東日本）	●下妻半谷子供会神輿支援（東日本）	●宮城農業高校じゃがいも栽培・販売支援（東日本、カルビーポテト）	●福島県学校給食研究会講義（東日本）
地域への支援	●石巻仮設住宅周辺でのじゃがいも栽培（東日本、カルビーポテト） ●千代田区高齢者施設ボランティア（本社）	●下妻フラワーフェスティバル参加（東日本） ●湖南工場周辺地域清掃（中日本）	●千歳国際マラソンボランティア（北海道） ●はつかいちトライアスロンボランティア（西日本）	●あやべ水無月まつり後の清掃（中日本） ●ねぶた祭り参加（東日本、本社）	●湖南工場児童向け工場見学（中日本） ●種子島西野農産夏祭り（西日本）	●大阪市北区防災カエルキャラバン（中日本） ●北海道・岩手県災害募金（全カルビーグループ）
環境の保護	●由良川花壇展出展（中日本）	●札内川河川敷清掃（カルビーポテト）	●栃木県みずほの里山活動（東日本）	●ミナミナの森植樹と下草刈り（北海道） ●海水浴場清掃（青島カルビー）	●十勝川花火後の河川敷清掃（カルビーポテト）	●長良川竹林整備（中日本）

自立的な実行力で地域貢献　カルビーUKほかの例

社会貢献活動は、世界のグループ会社においても自主的に進められています。
その地域のニーズに合った貢献を従業員自らが考え、自ら足を運んで活動しています。

カルビーUK　地域支援プログラム

SDGsとの関連

2014年に英国で設立したカルビーUKでは、工場所在地のフリントシャー周辺で地域に貢献するさまざまなプログラムを実施しています。フリントシャーは英国の他地域に比べて失業率が高く犯罪やドラッグ、アルコール依存症など社会問題が多い地域です。カルビーUK従業員が積極的に地域の施設や学校に出向き、キャリアのコーチやメンターとなり子どもたちや若者、女性たちを励ましています。一歩外にでれば素晴らしい世界があることを教え、大志や向上心を醸成している、と高い評価を受けています。クリスマスには4,000戸あまりの家庭におもちゃやお菓子のプレゼントをしました。

カルビータナワット 社会貢献活動

SDGsとの関連

カルビータナワット(タイ)では従業員から社会貢献提案を募集し審査の上、実施案件を決めています。2016年度は小学校・幼稚園のトイレ・洗面台の改修と増設、教会への登り道を舗装道路にするプロジェクトなどを支援しました。贈呈セレモニーにカルビー社長の伊藤も参加しました。どこの地域でも大歓迎を受け、子どもたちや地域の人々の明るい笑顔に出会えました。

青島カルビー食品有限公司　清掃活動を継続しています

SDGsとの関連

青島カルビーの従業員とその家族が青島日本人会主催の海水浴場清掃活動に毎年参加しています。参加者は年々増えてきており、活動も活発になっています。最近はごみを持ち帰る観光客も見られるようになり、ごみは減ってきました。現地の人達のマナーが良くなってきていると実感しました。

10月	11月	12月	2017年1月	2月	3月
● 各務原福祉フェスティバルみちのく未来基金支援募金(中日本)	● 廿日市小学生駅伝主催(西日本)	● お菓子コンテスト(本社R&Dセンター、スナックフード・サービス、カルビーポテト)	● ペップキッズこおりやまで食育ワークショップ(東日本)	● びわ湖カップ　なでしこサッカー大会(U-12)ボランティア(中日本)	● 福島ワークショップカーニバルで食育(東日本)
● 古河どまんなか祭参加(ジャパンフリトレー) ● 湖南市ゆめまつり参加(中日本)	● おはら祭参加(西日本) ● 農村部小学校施設支援(カルビータナワット)	● 千代田区施設訪問サンタボランティア(本社) ● ヒューマンアカデミー名古屋校スポーツカレッジ出前授業(中日本)	● 上野オフィス地域の防災功労賞(東日本) ● 宇都宮市釜川プロムナード清掃(東日本)	● 美瑛雪上絵ボランティア(北海道、カルビーポテト) ● 堂島薬師堂節分お水汲み祭りボランティア(中日本)	● 東松山観梅会(東日本、スナックフード・サービス) ● 古河はなももマラソン参加(ジャパンフリトレー)
● キリン水源の森活動(北海道)	● あいち海上の森間伐作業(中日本)	● 広島平和公園植栽ボランティア(西日本)	● 利根川クリーン作戦(ジャパンフリトレー)	● 清原工場周辺清掃(東日本)	● 小貝川ポピー草取り(東日本)

東日本大震災・熊本地震復興支援

被災地には長期の支援をします。カルビー、カルビーポテト、カルビー復興支援担当チームなどのメンバーが現地に足を運び、住民の方々とともに活動しています。

ペップキッズこおりやま他で食育ワークショップを継続しています

SDGsとの関連

ペップキッズこおりやまでの食育ワークショップ、スナックスクール、親子おやつ教室を開催して福島県下で食育活動を継続しています。福島県では児童の肥満傾向が問題になっているそうです。子どもたちの健やかな成長に寄与できるよう今後も努力します。

石巻の子どもたちとじゃがいも栽培

SDGsとの関連

石巻でのじゃがいも栽培支援は5年目になりました。収穫イベントに親子100名様に参加していただきました。収穫したじゃがいもはフライしてパウダーやディップでオリジナルポテトチップスを楽しみました。今後も継続して石巻の皆様への一助になれればと思います。

宮城農業高等学校学び支援

SDGsとの関連

東日本大震災で被災した宮城農業高等学校に対して、じゃがいも栽培を中心とした学び支援を2013年から行っています。将来農業の担い手となる生徒達に、じゃがいもを通じて農業の勉学を深めてもらうことを目的としています。2016年度はじゃがいもの植え付け・収穫の他、イオン名取店での販売体験も行いました。

益城町でじゃがいも教室を開催しました

SDGsとの関連

熊本地震で被害が大きかった益城町へ、フードバンクかごしま様とポテトチップスなどの商品を寄贈しました。また避難所になっている広安小学校ではじゃがいも教室を開催しました。大変な環境の中、子どもたちの笑顔を見ることができて嬉しい気持ちになりました。

「公益財団法人みちのく未来基金」で子どもたちの進学を支援

SDGsとの関連

「みちのく未来基金」は、東日本大震災において両親またはいずれかの親を失った子どもたちの大学及び専門教育への進学支援を目指し2011年に設立されました。2017年3月末までに638名に奨学金を給付しました。カルビーは事務局スタッフを派遣するとともに「370（みんなで応援）募金」という給与からの寄附金天引きや、工場でのイベント出店売り上げ、自動販売機設置料の一部など、さまざまな活動を通して支援を行っています。

Point!

チートスのりしお味の売上の一部を熊本県に寄附しました

おやつを通じた地域貢献

「人々の健やかなくらしに貢献する」ことを目的に、身近なおやつを通して食の正しい知識や楽しさを伝えるフードコミュニケーション活動を全国各地で行っています。4つの推進テーマを掲げて、常に新たなコミュニケーションの創出に取り組んでいます。2016年度は「カルビー・スナックスクール」および教材提供による授業の開催が計773校あり、児童・保護者56,239名にご参加いただきました。スナックスクール以外でも190ヵ所にて食育活動を行い、従業員も延べ471名が応援に参加しています。

フードコミュニケーションの4つの推進テーマ

1 楽しいおやつの食べ方提案
小学校への食育出張授業「カルビー・スナックスクール」を中心に教育支援をしています。

2 「自然の恵み」を活かした取り組み
じゃがいもの栄養研究、学会発表、講演会などを行っています。

3 おやつコミュニケーション
店頭や公共施設での親子に向けたイベントで、カルビーの安全・安心への取り組みやおやつの楽しさを体験してもらいます。

4 「安全・安心」「環境」への取り組み
カルビーの各取り組みを工場見学を通して紹介しています。

地域をアピールする商品を発売しました

SDGsとの関連

2016年5～8月にかけて、福島市との共創により販売した「ポテトチップスいかにんじん味」が大人気となりました。この商品は、カルビー社長、伊藤の出身地、福島県の郷土料理「いかにんじん」の味わいを再現したポテトチップスで地域限定商品としては異例の大ヒット商品となりました。

▲福島県で6月に開催された第11回食育推進全国大会でもご試食いただき大好評でした。

お菓子コンテストでものづくりの楽しさを伝えています

SDGsとの関連

2011年からお菓子コンテストを実施しています。宇都宮市と首都圏の小学生から集まったアイデアの中から優秀作品をカルビー開発メンバーが実際にお菓子にします。2016年度のテーマは「思わず笑っちゃう未来のお菓子」でした。1,356作品の中から選び抜かれた13作品のアイデアを提案した児童とご家族、学校関係者をR&Dセンターにご招待して表彰式を行いました。これからもコンテストを継続し、ものづくりの楽しさを発信していきます。

◀お菓子を噛むときのあごの骨の振動を利用して音階を実現。左は「ド」を出す福田くん

食べたときに音階がなる「ドレミスティック」▶
提案者小学4年生 福田海周くん

Point

CSR検定2級・3級に累計29名が合格しています！

2016年度、カルビーグループからCSR検定2級に5名、3級に6名が合格しました。これで合格者の累計が29名になりました。CSRの基礎を知ることは、自分と世界がどのようにつながっているのかを理解することです。カルビーが未来においても持続可能であるように、学びを進めています。

Webでご覧いただけるその他の取り組み http://www.calbee.co.jp/csr/social/region.php

SDGsとの関連

環境マネジメント

地球が育んだ自然の恵みを未来へつなげていくために

これからも「自然の力を掘りだす」ために グループ全員で環境保全に取り組みます

カルビーグループ環境宣言

掘りだそう、自然の力。
Calbee

Ⅰ. 環境に対する基本的な考え方

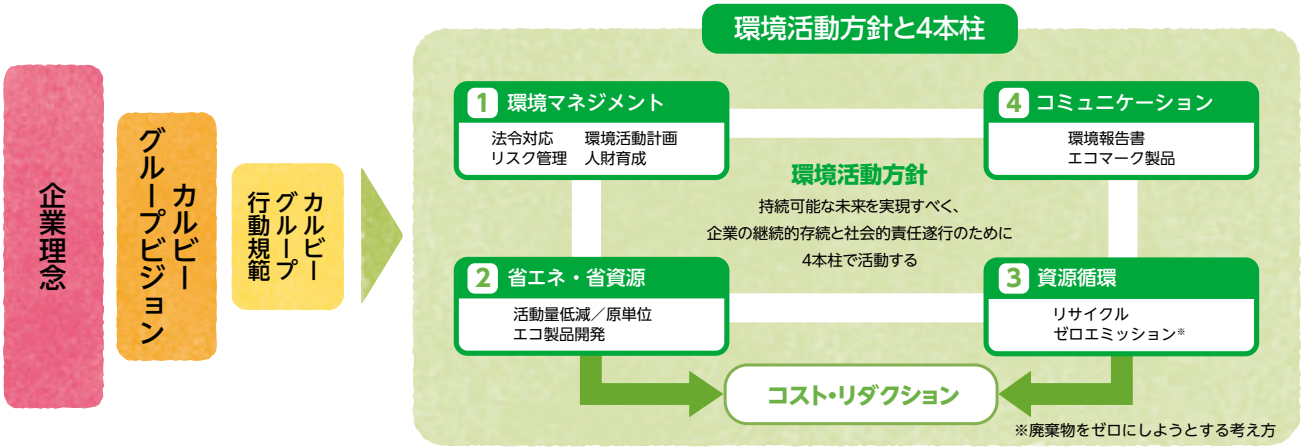
『掘りだそう、自然の力。』
カルビーグループは、このコーポレートメッセージのもと、
地球が育んだ自然の恵みをカタチにして、お客様にお届けしています。
自然の生命力、可能性を掘りだすとともに、
地球が育んだ自然の恵みを大切に使い、
できる限り自然のカタチに戻して、地球にお返しします。
地球のすべての動物、植物とともにくらす一員として、
すばらしい自然の力を、未来の世代につなげていきたい、
そして、すべてのステークホルダーの皆様から「愛される」企業になりたい、
それがカルビーグループの願いです。

Ⅱ. 環境方針

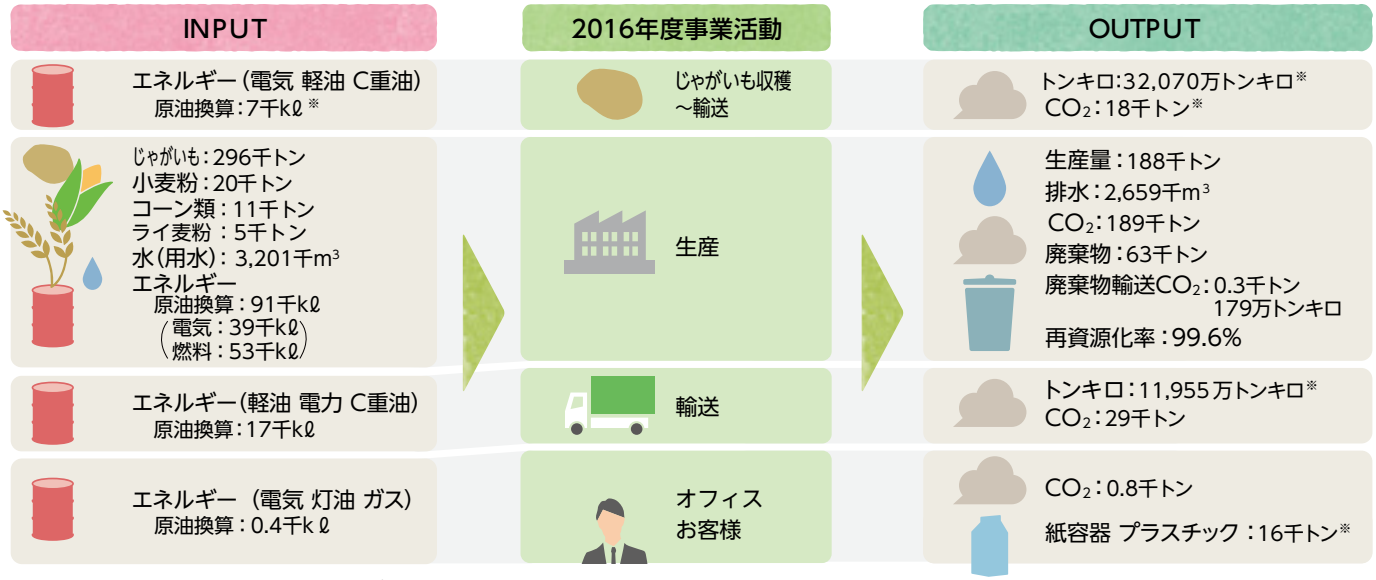
1. 環境に関する法令、条例等を遵守します。
2. 人々の健康や地球環境に配慮した安全な商品の提供に努めます。
3. 地球温暖化につながるCO_2の排出抑制に努めます。
4. 自然の恵みである原料を無駄なく活用するとともに、廃棄物および水使用の削減を目指します。
5. すべての従業員で、環境保全に取り組みます。

環境活動方針

カルビーグループは企業理念に「私たちは、自然の恵みを大切に活かし、おいしさと楽しさを創造して、人々の健やかなくらしに貢献します。」を掲げています。この企業理念とCSR活動の精神を環境対策の方針にも取り入れ、環境保全における役割を積極的に果たせるよう、さまざまな環境施策に取り組んでいます。
2016年度は前年度に引き続き「フロン排出抑制法」への対応を進めたほか、生産増の影響で排水の負荷が増えることから、量、質の両面で排水処理に関する内部監査を全15工場で実施しました。



■2016年度の事業活動と環境負荷の全体像　集計対象組織:国内カルビーグループ会社

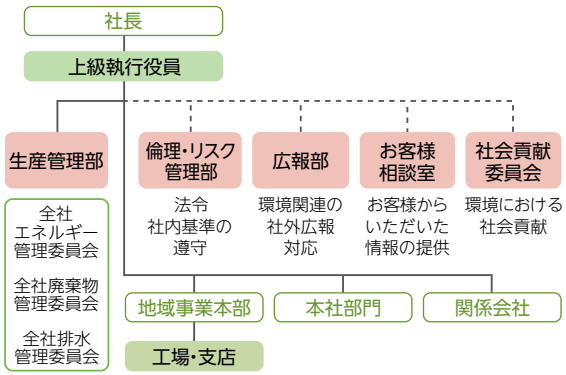


※「じゃがいも収穫～輸送」「輸送トンキロ」「紙容器 プラスチック」は2015年度実績

環境マネジメントの推進

生産管理部を中心に、環境に関する排出目標達成に向け全社で取り組みを推進しています。「全社エネルギー管理委員会」「全社廃棄物管理委員会」「全社排水管理委員会」のもと、テーマ別の会議を定期開催し、環境マネジメントのPDCAサイクルをまわしています。また、全従業員に向けた啓発活動を実施し、全社一丸となって環境目標の達成に取り組む風土づくりにも取り組んでいます。

■環境活動推進体制



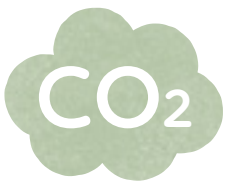
Point

CALBEE GREEN 通信

カルビーグループ全従業員の環境意識を高めるために、生産管理部が中心となって制作している環境啓発ツール。2010年4月より毎月発行されており、現在の地球環境の状況や環境用語の解説、カルビーの各グループ会社・工場における環境の取り組みなどを紹介しています。

環境目標を設定(対2009年度比)

● CO_2削減目標



2020年度
売上原単位
マイナス
11%

● 廃棄物削減目標

2020年度
売上原単位
マイナス
30%

● 水削減目標

2020年度
売上原単位
マイナス
30%

Webでご覧いただけるその他の取り組み　http://www.calbee.co.jp/csr/environment/

SDGsとの関連

温暖化防止の取り組み

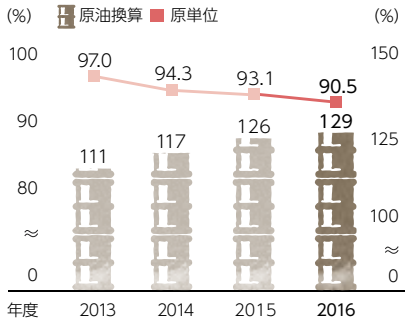
この地球で活動する企業の一員としての責任を果たします

地球規模の課題である気候変動に対し グループ全体で取り組みます

CO_2排出量削減の取り組み

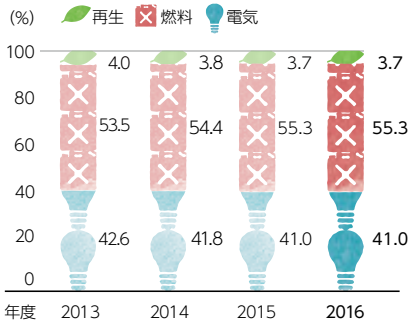
2016年3月よりカルビーポテト帯広工場において、A重油からLNG(液化天然ガス)への転換が本格的に稼働したことにより、エネルギー効率が向上しました。また、バイオマスボイラー※高効率運転の実施など、さまざまな取り組みにより2016年はエネルギー効率、CO_2排出量ともに、生産量の増加に伴い総量は増えたものの、原単位では目標を達成することができました。

■エネルギー原単位推移

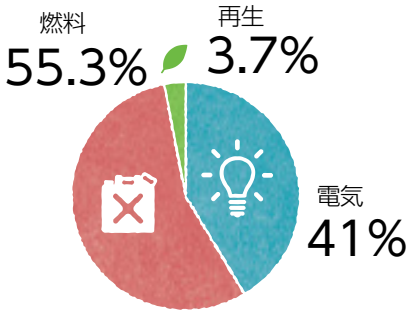


※集計対象組織：国内カルビーグループ会社
(2011年を100とした値)

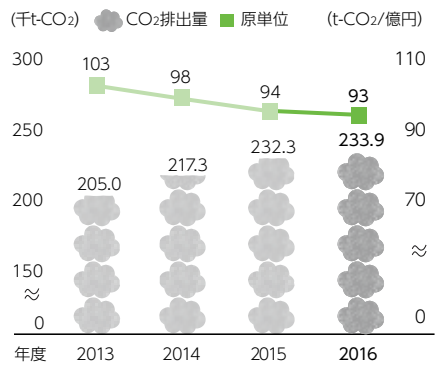
■エネルギー種類別使用割合の推移



※集計対象組織：国内カルビーグループ会社

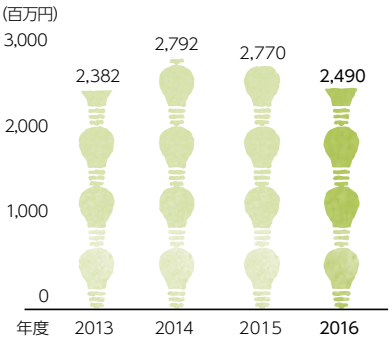


■CO_2排出量および原単位の推移



※集計対象組織：国内カルビーグループ会社

■電力購入量の推移



※集計対象組織：国内カルビーグループ会社

Point!

LNGへの燃料転換

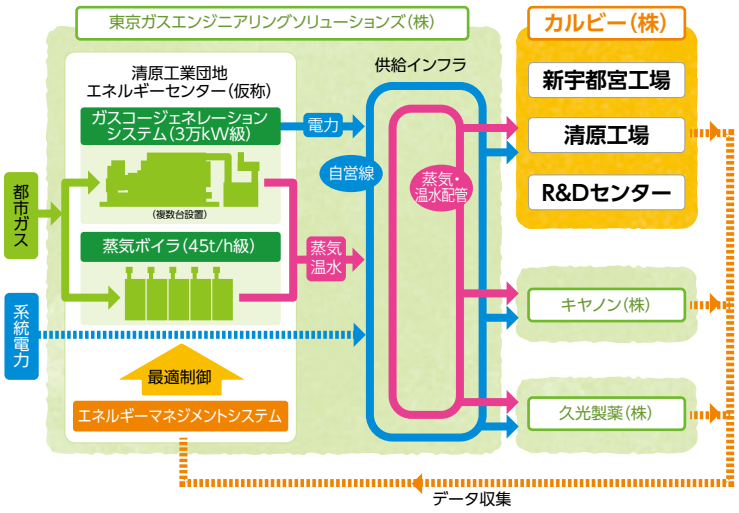
LNGは液化天然ガスのこと。燃焼時に硫黄酸化物やばい煙などが発生しないクリーンなエネルギーです。LNGへの転換などにより年間で約2,200トンのCO_2を削減しました。

※バイオマスボイラー
化石燃料の代わりに再生可能なバイオマス(例:木質チップなど)を燃料として使用するボイラー

国内初の「工場間一体省エネルギー事業」を協業により推進

キヤノン、久光製薬、カルビーの3社は、清原工業団地（栃木県宇都宮市）内7事業所と東京ガスとの協業により、3万kW級のガスコージェネレーションシステムを備えた「清原工業団地エネルギーセンター（仮称）」建設に参画。2019年1月の竣工をめざし建設中です。
異業種複数事業所向けに電力と熱（蒸気や温水）を合わせて供給する「工場間一体省エネルギー事業」は、国内初となります。近接する7つの事業所とエネルギーを共有することで大幅な省エネやCO_2削減効果が見込まれています。

▶ 清原工業団地
エネルギーセンター（仮称）の
外観イメージ図



フロン排出抑制法への対応

2015年4月の「フロン排出抑制法」の施行にともない、生産管理部が中心となって、指定範囲の全ての工場、事業所において機種点検や調査を実施し、適切な機器の管理を行っています。

輸送時に発生するCO_2の削減

カルビーは2007年に「特定荷主※」に指定され、原単位削減に取り組んでいます。物流会社との協働により、配送ルートの見直しや、エコドライブによる燃費改善、共同配送の拡大、長距離輸送のモーダルシフト（トラック→鉄道）などに取り組んでいます。

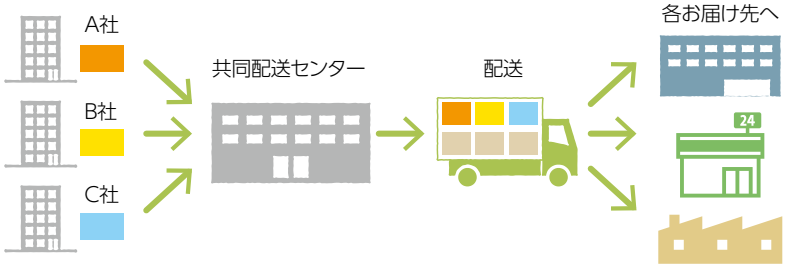
※特定荷主
省エネ法により、年度の輸送量が3,000万トンキロを超える場合に指定され、省エネ計画の作成とエネルギー使用量の定期報告が義務付けられています。

● エコドライブの推進

480台96.2%搭載

※集計対象組織:国内カルビーグループ会社

■共同配送の拡大



● 共同配送によるCO_2削減量 **785t-CO_2**

※集計対象組織:国内カルビーグループ会社

エコレールマーク

カルビーは、500km以上の陸上貨物輸送のうち30%以上鉄道を利用している場合に認められるエコレールマーク認定を受けています。

Webでご覧いただけるその他の取り組み http://www.calbee.co.jp/csr/environment/prevention.php

SDGsとの関連

資源の有効活用

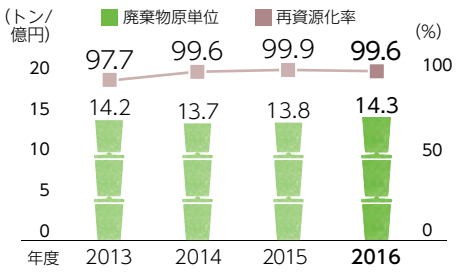
循環型社会の実現に向け資源の3Rにつとめます

自然の恵みを大切につかい 持続可能な生産をすすめています

廃棄物量の削減と再資源化

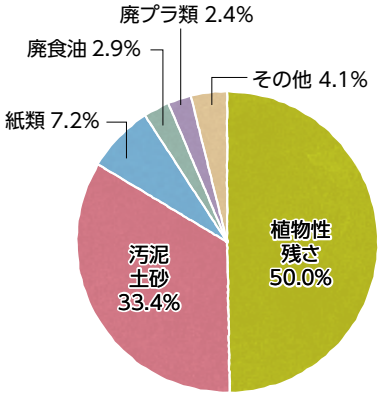
分別収集の推進や廃棄物発生量の抑制、リサイクルフローの策定、残さの飼料化、微生物による排水浄化など、「ゼロエミッションの推進」と「リサイクル」を柱に活動しています。また、廃棄物処理の委託先との連携によって廃棄物の有価物化、用途開発にも取り組んでいます。また、「全社廃棄物管理委員会」によるスキルアップセミナーでは、各工場での廃棄物管理力の向上を図っています。

■廃棄物の原単位と再資源比率



※集計対象組織：国内カルビーグループ会社

■廃棄物の内訳



じゃがいも残さの飼料化

新宇都宮工場では全国酪農業協同組合連合会等と連携し、じゃがいも残さの飼料化に取り組んでいます。残さを乳牛用の飼料とするには安全性、保存性、栄養面、嗜好性など、さまざまな課題がありますが、乾燥によって減量化し、飼料としての価値を向上させる研究にも取り組んでいます。

水・熱量のリサイクル効率化

カルビーグループでは2020年までに「水」と「廃棄物」における原単位の30%削減(2009年度比)を目標としています。

水とエネルギーの効率的なリサイクルを実現するために、ガーデンベーカリー(株)ではパンの運搬容器の洗浄水の再利用に「UF膜処理」を導入。これによって約90%の水と約40%のエネルギーが、リサイクル可能となりました。

SDGsとの関連

環境コミュニケーション

環境問題をより身近に感じていただくために

豊かな自然を守るために お客様とともに歩んでいきます

日本の森と水と空気を守る環境貢献プラットフォームの運営

案件入札、案件公募
マーケティング機能
価格折衝
管理機能

POPツール
1,128t
(全CO_2排出量)

配送箱などの外装材
208t
(全CO_2排出量)

カーボン・オフセット
合計 1,336t-CO_2

Eco Value Interchange
日本の森と水と空気を守ります。

カルビーグループのカルネコ㈱は、森林吸収系クレジットの流通プラットフォーム(EVI:Eco Value Interchange)の運営を通じて、日本の森林保護に貢献しています。2016年度は販促ツールおよび配送資材の製造時に排出するCO_2全量のカーボン・オフセットを実施しました。商品を購入したお客様がご自分の好きなエリアの森を支援できるキャンペーンをコーディネイトするなど、人々と環境貢献をもっと身近にする活動を数多く行っています。

国産木材を使ったパズルが「ウッドデザイン賞」受賞

カルネコが開発した「A for animalどうぶつアルファベットパズル」が「ウッドデザイン賞2016」および「ソーシャルプロダクツ・アワード2017」を受賞しました。

JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2016

環境絵本を子どもたちに贈呈

幼いころから森の大切さを感じてもらえるよう2014年に環境絵本を製作しました。2016年度までに累計1,000セットあまりを幼稚園や保育園に寄贈しています。2016年度は新刊も発行して、合計6種から年齢にあった絵本が選べるようになりました。

VOICE

森のめぐみをお客様の手に

カルネコ(株)で国内材を使用したノベルティや商品の開発をしています。海外の伐る必要のない木を使わず、国内の伐採時期の木や間伐材を活用しています。木から商品となり、購入いただけた時はとても嬉しいです。山にお金を還流する事で森も山も、自然環境も未来環境も良くなります。
全国で森に関わる人々との交流もあり、また日本を元気にする仕事に携わっている事が嬉しいです。

カルネコ(株)CSV推進室
川向 ともみ

ぜひご覧ください!
森のめぐみのおとりよせ http://morinomegumi.kinodeguchi.jp/
EVISHOP http://www.evic.jp/evi/evi_shop/index.html

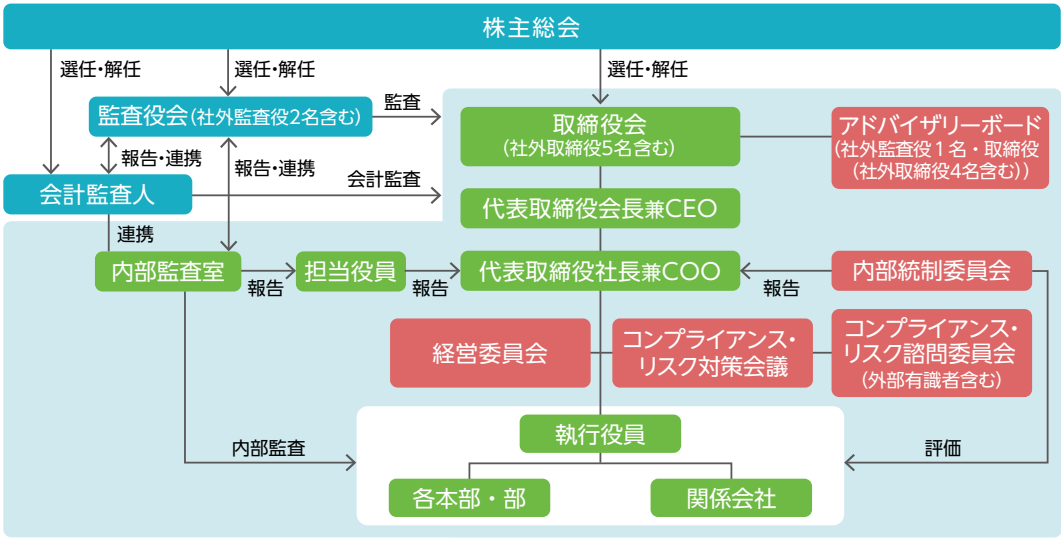
Webでご覧いただけるその他の取り組み http://www.calbee.co.jp/csr/environment/bio.php

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス体制 2017年6月末日現在

カルビーは「顧客・取引先から、次に従業員とその家族から、そしてコミュニティから、最後に株主から尊敬され、賞賛され、そして愛される会社になる」というビジョンのもと、すべてのステークホルダーの信頼と期待に応え、企業価値の向上を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本としています。この基本的な考え方に基づき、経営の透明性、効率性を高め、内部統制の仕組み、コンプライアンス体制の充実を図るべく、コーポレート・ガバナンスの強化・充実に努めています。

■コーポレート・ガバナンス体制図



取締役会・役員体制

取締役会は独立性の高い社外取締役5名を含む計7名（うち女性2名、外国人1名）で構成され、原則として毎月1回定期開催し、法定事項の決議、重要な経営方針・戦略の策定および決定、業務執行の監督などを行っています。社外取締役は経営者としての豊富な経験や高い見識を持ち、独立した立場からの監督機能として役割を果たしています。2016年度において、全取締役の取締役会への出席率は93%でした。

また、業務執行は、執行役員24名（うち女性7名）を選任し権限委譲した組織運営を行い、迅速な意思決定と業務執行責任の明確化を可能とする体制づくりを推進しています。なお、執行役員のうち、特に委嘱される業務が重要かつ広範にわたり、従業員身分を有しない執行役員を上級執行役員としています。

● 社外取締役の数・全取締役に占める割合

5名(71%)

● 女性取締役の数・全取締役に占める割合

2名(29%)

● 女性執行役員の数・全執行役員に占める割合

7名(29%)

監査役会・監査役

会社法関連法令に基づく監査役会設置会社制を採用しています。監査役会は、社外監査役2名を含む計3名で構成され、経営の透明性を確保するとともに、経営に対する監視、監査機能を果たしています。

● 社外監査役の数・全監査役に占める割合

2名(67%)

● 女性監査役の数・全監査役に占める割合

1名(33%)

経営委員会

原則として毎月1回以上、会長、社長含む上級執行役員8名と主要子会社社長2名および営業企画本部長と営業本部長の計12名を定例メンバーとして経営委員会を開催し、業務執行の状況と課題の検証、重要案件の事前討議等を行っています。

■コーポレート・ガバナンス体制の変遷

これまでに実施したコーポレート・ガバナンス体制強化の取り組みは右記の通りです。

2001年	監督と業務執行の分離	執行役員制度を導入、社外取締役を選任し、業務執行と経営の監督機能を分離
2009年	監督・監視機能の強化	社内取締役を9名から2名に減らし、社外取締役を2名から5名に増員し、独立性の高い社外取締役が過半数を占める体制に変更
	ダイバーシティの推進	初の外国人取締役を選任 現在は取締役7名のうち、2名が女性、1名が外国人　監査役3名のうち、1名が女性
2010年	透明性・健全性の強化	指名、報酬を検討・提言する任意委員会アドバイザリーボードを設置
2014年	経営責任の明確化	毎事業年度に関する責任をより明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を構築するため、取締役の任期を2年から1年に変更

内部統制

金融商品取引法の施行に伴う「内部統制報告制度」への対応として「内部統制委員会」を設置し、内部統制の構築・評価を進めています。

また、会社法に基づく「内部統制システムの整備に関する基本方針」を取締役会において決議し、各種規程類の整備やリスク管理状況の確認を実施しています。

マネジメント、CSR活動推進が表彰されました

カルビーは、日本食糧新聞社が主催する「第25回食品安全安心・環境貢献賞」を受賞しました。この賞は、(1)継続的な改善を図るマネジメントシステムを構築し、(2)CSR報告書、環境報告書などで適切に情報開示していて、安全・安心関連、環境保全、社会貢献に取り組んで実績を上げ、業界の範となるような企業・団体で、他の企業・団体と比較できる目標を持ち、実現していることが選考基準です。カルビーは特に「地域に貢献する食品リサイクルなどのCSR活動の推進」が評価されました。

Webでご覧いただけるその他の取り組み http://www.calbee.co.jp/csr/management/

コンプライアンス・リスク管理

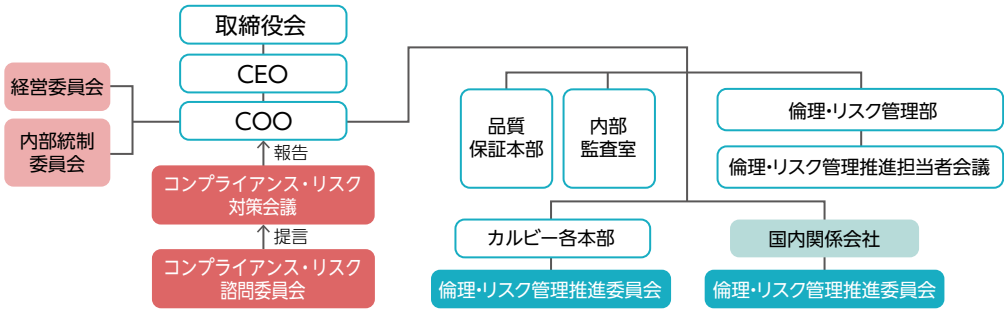
コンプライアンス意識の浸透

カルビーグループは、法令や社会規範の遵守こそ事業活動を支える根幹と考え、2006年に「グループ行動規範」と「グループ行動指針」を制定しました。グループビジョンとともに、経営トップより全従業員に対してこれらの周知徹底を図っています。

具体的には、エシックスカード(グループ行動規範)の携行、全管理職層向けの「コンプライアンス通信」の配信、「倫理・リスク管理部だより」の社内報への掲載などを実施しています。また2015年度からは、新任管理職研修を着任前に実施するなど、リーダー層への教育を強化しています。

コンプライアンス意識の向上への取り組み成果は、毎年1回実施している「意識調査」によってチェックされ、継続的な改善が行われています。

■コンプライアンス・リスク管理体制組織図

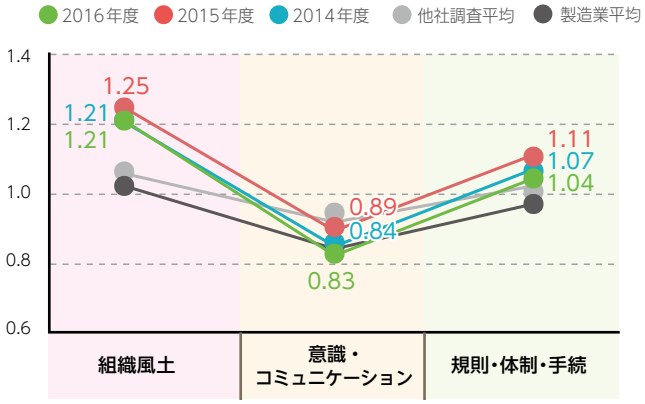


コンプライアンス意識調査の結果

コンプライアンス総合評価点について過去4年連続でアップしていましたが、北海道における自然災害によるじゃがいも不足が、社内の士気や従業員のモチベーションに影響したと思われ、2016年度は初めて前年度を下回る結果となりました。コンプライアンス・リスク対策会議では、この調査結果を真摯に受け止め、社内のモチベーション低下によるリスクについて、全役員が危機感を共有するとともに、改善に向けての迅速な意思確認を図りました。今回、評価点は下がったものの調査結果から、従業員一人ひとりが会社のリスクに対してしっかり認識することの大切さが、改めて浮き彫りになりました。

今後も「コンプライアンスの3本柱」と定める「組織風土」「意識・コミュニケーション」「規制・体制・手続」を中心に、グループ全体へ教育・啓発活動を継続的に展開していきます。

■意識調査



組織風土
個人の不正を許容したり、組織ぐるみで問題を隠ぺいしたりする組織体質になっていないか

意識・コミュニケーション
組織の自主的な改善機能に問題はないか

規則・体制・手続
組織における規則や体制・手続きが、活きたインフラとして機能しているか

コンプライアンス・リスク管理体制の強化

カルビーグループは、法令や社会的倫理を遵守し、法令違反を含めた事業上のリスクを把握して予防策を講じていくために、2007年に「コンプライアンス・リスク管理規程」を制定し、「コンプライアンス・リスク対策会議」のもと、体制強化を進めています。また、想定される高度なリスクに対応するため、外部有識者を委員長とする「コンプライアンス・リスク諮問委員会」(5名中2名が社外)を設けています。さらに、コンプライアンス教育にも力をいれており、コンプライアンス・リスク対策会議メンバーに対し、経営層向け研修を実施しています。現場レベルでも、管理体制の強化を目指して新任管理職を対象とした通信教育を行っています。

コンプライアンス・リスク諮問委員会

四半期に一度開催される本委員会は、外部有識者を委員長とし、その他1名の外部委員とCOO、人事総務本部長、管理本部長を主要メンバーとして構成されています。
環境や品質に関わる問題などの経営リスクや、コンプライアンスに関わる問題、課題を報告し、外部有識者メンバーからの客観的な意見・指導を受けることにより改善につなげていく機会となっています。

リスクマネジメント体制

カルビーグループでは、企業を取り巻く多様な経営リスクに対応するため、2007年より「危機管理規程」を制定し、内部統制システム構築の過程で各事業本部・グループ会社の経営リスクの把握と評価作業を行っています。特に製品の安全性や原材料の調達に関するリスクには、品質保証本部が中心となって予防策を講じるとともに、迅速に対応できる体制を整えています。また、年1回「法令遵守総点検」を各事業本部・グループ会社において実施し、約400項目にわたって事業運営に関する点検事項をチェックしています。
本社の各本部が中心となり作成したリスクマップを定期的に見直し、万が一の災害や事故に対しても被害を最小限に抑えて迅速な復旧を図るための組織体制を整備しています。

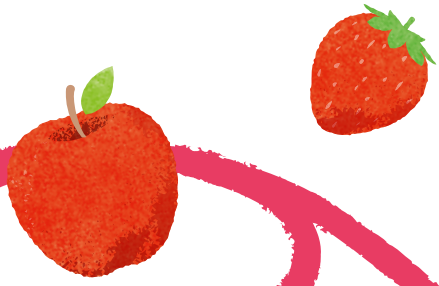
BCPの整備

カルビーグループでは、2010年度に「危機管理体制整備のプロジェクト」を立ち上げ、毒物混入、不祥事、自然災害等が発生した際の事業継続計画(BCP)を策定・運用しています。関係会社を含む全拠点においてBCPマニュアルの策定と更新を進め、グループ全体の緊急時対応力の強化を図っています。また従業員の安全確保、事業継続の基盤として、全員が安否確認システムに登録しています。
また、2016年8月に電力と熱の供給契約を締結した「清原工業団地エネルギーセンター(仮称)」は、省エネ・CO_2削減のほか、BCPの観点からも効果が期待されるものです(詳細は本誌P29、P43参照)。

Webでご覧いただけるその他の取り組み http://www.calbee.co.jp/csr/management/compliance_risk.php

掘りだそう、自然の力。

Calbee



会社概要

社名	カルビー株式会社
本社所在地	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-3 丸の内トラストタワー本館22階
電話番号	03-5220-6222（代表）
設立	1949年4月30日
代表取締役会長 兼 CEO	松本 晃
代表取締役社長 兼 COO	伊藤 秀二
事業内容	菓子・食品の製造・販売
売上高	（連）2,524億20百万円（2017年3月期実績）
従業員数	（連）3,860人［3,726人］（2017年3月31日現在） ※外書き［ ］は臨時従業員の年間平均雇用人数
関連会社【国内】	カルビーポテト(株)、スナックフード・サービス(株)、ガーデンベーカリー(株)、 タワーベーカリー(株)、(株)カルナック、カルビー・イートーク(株)、 ジャパンフリトレー(株)、カルネコ(株)
関連会社【海外】	カルビーノースアメリカ／米国　カルビータナワット／タイ カルビーフォーシーズ有限公司／香港　CFSS有限公司／中国 青島カルビー食品有限公司／中国　烟台カルビー商貿有限公司／中国 ヘテ・カルビー／韓国　台湾カルビー股份有限公司／台湾 カルビーウィングスフード／インドネシア　カルビーUK／英国 カルビーURC／フィリピン　カルビーモウセン／シンガポール カルビーEコマース／香港　カルビーオーストラリア／オーストラリア
事業本部	北海道、東日本、中日本、西日本
自社工場	北海道、新宇都宮、清原、研究開発本部、下妻、各務原、京都、湖南、広島東棟、 広島西棟、鹿児島
協力工場	カルビーポテト帯広工場、北海道フーズ、ポテトフーズ（東松山工場）
支店	北海道、東日本、東京、中部、近畿、中四国、九州
物流拠点	北海道、宇都宮、東松山、各務原、滋賀、広島、鹿児島
研究開発本部	宇都宮

カルビー 株式会社
〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-8-3
丸の内トラストタワー本館22階
コーポレートコミュニケーション本部広報部
http://www.calbee.co.jp/

ご意見・ご感想をお聞かせください
http://www.calbee.co.jp/q/csr/

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C014969
適切に管理された森林からの木材製品であることを証明する、FSC森林認証紙を使用しています。

VEGETABLE OIL INK
揮発性有機化合物（VOC）を含まない植物油100%のNon-VOCインキを使用しています。

Waterless Printing Naturally
有害物質を含む湿し水を使用しない、水なし印刷方式にて印刷しています。

UD FONT by MORISAWA
だれにも読みやすい、ユニバーサルデザインフォントを使用しています。